

重点「道の駅」 全 35 箇所

(ゲートウェイ型)

主な機能	都道府県	市町村	駅名	主な特長
インバウンド観光	北海道	ニセコ町	ニセコビュープラザ	国際リゾート地”ニセコ”におけるインバウンド観光拠点
	栃木県	那須町	那須高原友愛の森	国際観光地として外国人観光客対応に向けた機能強化
	千葉県	神崎町	発酵の里こうざき	町の資産である発酵文化を「道の駅」を核として世界に発信
	静岡県	伊豆地域	伊豆道の駅ネットワーク	伊豆半島内の8駅をネットワーク化し、地域の多様な観光情報発信
	兵庫県	神戸市	(仮称)神戸北	神戸ブランドや神戸観光の拠点として、国内・海外に発信
	愛媛県	今治市	しまなみ海道周辺「道の駅」	サイクリストを国内外の観光客を地域の周遊観光へ呼び込む
観光総合	北海道	石狩市	(仮称)あつたか・あいろーど	国道231号の「情報発信機能」として地域へ呼び込むゲートウェイ機能
	岩手県	陸前高田市	高田松原	震災の実情と教訓を国内・海外に向けて発信
	宮城県	大崎市	あ・ら・伊達な道の駅	地域資源(伊達政宗の史実等)を活用した観光拠点
	秋田県	にかほ市	象潟	環鳥海地域のゲートウェイとしてワンストップで総合観光情報発信
	山形県	米沢市	(仮称)よねざわ	山形県広域観光のゲートウェイとなる観光総合窓口設置
	福井県	大野市	(仮称)結の故郷	「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核とし、地域資源情報発信
	長野県	青木村	あおき	「体験学習の村」の体験交流拠点機能の拡充
	愛知県	豊田市	どんぐりの里いなぶ	地域の体験観光の総合窓口機能集約や、地方移住に係わる情報提供
	和歌山県	太地町	(仮称)たいじ	「くじらの町」太地のゲートウェイとして歴史・文化の情報発信
	鳥取県	鳥取市	神話の里白うさぎ	神話「因幡の白うさぎ」など歴史・自然の観光を展開
	山口県	下関市	蛍街道西ノ市	街道の歴史・文化を伝える活動や「ほたる舟ツアー」を実施
	佐賀県	鹿島市	鹿島	干潟環境教室を「道の駅」を中心に実施し、観光交流人口拡大
移住	広島県	尾道市	クロスロードみつぎ	地元高校と連携し、インターンシップ実施。地元での就労を促す
	熊本県	小国町	小国	移住定住対策や観光総合機能等、さらなる機能強化を図る

(地域センター型)

主な機能	都道府県	市町村	駅名	主な特長
産業振興	北海道	当別町	(仮称)当別	地域資源である農産物を農工商が連携し6次産業化
	茨城県	常陸太田市	(仮称)常陸太田	体験圃場施設としてトマトハウス整備や地場産品を活用し体験・交流
	岐阜県	大野町	(仮称)大野	特産品のバラ苗や柿を中心とした産業振興拠点
	兵庫県	朝来市	但馬のまほろば	天空の城「竹田城」等を活かし、産業・雇用等の機能強化
	鳥取県	日南町	(仮称)にちなん	まちを創生するための拠点(コンパクト・ヴィレッジ)を形成
	島根県	浜田市	ゆうひパーク浜田	女性・若者の交流拠点や地域産品のオリジナルレシピを発信
地域福祉	千葉県	睦沢町	つどいの郷むつざわ	「スマートウェルネスタウン」の中核拠点
	長野県	飯島町	(仮称)田切の里	「道の駅」を地域福祉の拠点として、宅配サービスなど実施
	新潟県	十日町市	瀬替えの郷せんだ	夏と冬でせんだ元気ハウスを活用した農業実習、除雪ボランティア
	高知県	梶原町	ゆすはら	「ゆすはらまるごとクリニック」構想の拠点施設とし健康増進
	福岡県	うきは市	うきは	高齢者や女性がいいきと働き・暮らすための拠点とした整備
防災	福島県	猪苗代町	(仮称)いなわしろ	火山や豪雪等のあらゆる災害に対応した総合防災拠点
	新潟県	妙高市	あらい	豪雪地帯にあって、環境・観光にも配慮した新たな防災拠点
	和歌山県	すさみ町	(仮称)すさみ	南海トラフ巨大地震時の避難場所等の広域防災拠点として整備
	高知県	須崎市	かわうその里すさき	津波避難タワー等を新設し地域の防災拠点として防災機能強化

- 国際リゾート地”ニセコ”における滞在型観光の拠点化に向け観光コンシェルジュ、通訳ホットライン等により情報機能を拡充
- 地域を支える観光と農業の2つの産業を結びつける場の創出(免税向け地場製品の開発等)

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

インバウンド観光
国際リゾート地としてふさわしい観光拠点

観光総合案内
滞在型観光の促進

産業振興
地元起業家、営農者の活力創出

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ニセコビュープラザ	北海道	ニセコ町	国道5号	既設	平成9年	一体型

至札幌・小樽 5

HANAZONO7クティビティセンター 倶知安駅

スキーリゾートの賑わい

ニセコスキーリゾートエリア
ニセコひらふエリア

モウエリア アンスアエリア 東山エリア

草蹄山

至函館

リゾートエリア 市街地へ

ニセコ町 二セコ市街地

「道の駅」ニセコビュープラザ

道の駅で観光案内

道の駅で「地域」を知る

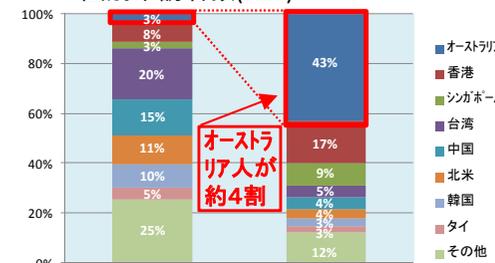
至洞爺湖

「道の駅」がゲートウェイとなり、地域ぐるみで宿泊施設、飲食店、ATM、天候等を総合的に案内

▼外国人観光客の推移(延べ宿泊数)



▼国別来訪者数(H25)



全国 出典:北海道観光入込客数調査結果報告書
観光庁 都道府県別観光入込客数集計宿泊旅行統計調査
※ニセコ圏域:ニセコ町・倶知安町・蘭越町

○世界的に評価されているスキーリゾート



世界20カ国を対象として「ワールド・スキー・アワード」において表彰
2013年:4部門中3部門(リゾート・ホテル・ロッジ部門)で最優秀賞を獲得
2014年:4部門全てで最優秀賞を獲得
ブティックホテル部門では、世界一を受賞



▲パウダースノーを求め増加し続ける外国人観光客

<実施内容>

- ICTによる情報提供設備の整備(無料公衆無線LANの再整備、デジタルサイネージの設置)
- JNTO外国人案内所の認定及び免税店化と地元産品による商品開発
- 交流機能強化整備(地元起業家商品販売支援、情報設備・トイレの再整備)
- 防災拠点化整備(休憩スペース、駐車場拡張)

- ニセコエリアの広域観光・交通情報提供を備えたゲートウェイとして**観光コンシェルジュ**や**通訳のホットライン**により周遊観光を推進するとともに、**周辺「道の駅等」とも観光情報を共有し、地域情報発信の機能向上による滞在型観光の促進**
- 地域経済の循環を図るため、**地元起業家の商品を紹介するスペースの確保**やニセコ町産酒米100%使用のお酒の開発をはじめとした**免税向け商品の充実**など、**さまざまな産業が活躍できる場、来訪者と生産者の交流促進の場を創出**

<提案の先駆性・ポイント>

道の駅「那須高原友愛の森」

- ロイヤルリゾートである那須地域を国際観光地とすべく、外国人観光客のニーズにあったサービスの提供など「道の駅」の機能を強化（平成32年外国人宿泊数の目標：約5万人）
- 「道の駅」の年間利用者は、目標の50万人を超える約67万人（H25）。今後は、那須地域の観光情報を集約・提供等を実施することにより、年間利用者100万人を目指す。
- 東日本大震災の教訓を活かし、地域住民のみならず観光客や県外からの避難者のための防災拠点化

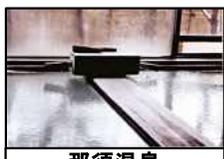
＜地方創生拠点としての機能＞
ゲートウェイ型

インバウンド観光 インバウンドニーズに応えるサービスの提供	観光総合窓口 那須観光の玄関口	地域福祉 住民サービスのワンストップ提供	防災 観光客のための防災拠点化
----------------------------------	--------------------	-------------------------	--------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
那須高原友愛の森	栃木県	那須町	県道17号	既設	平成9年	一体型



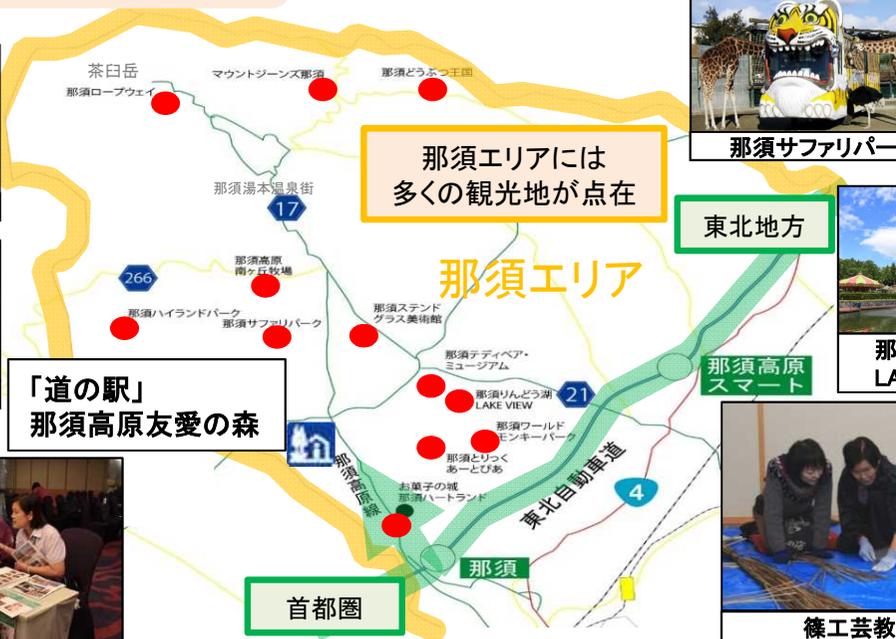
茶臼岳



那須温泉



台湾旅行会社との商談会



那須エリアには多くの観光地が点在



那須サファリパーク



那須りんどう湖 LAKE VIEW

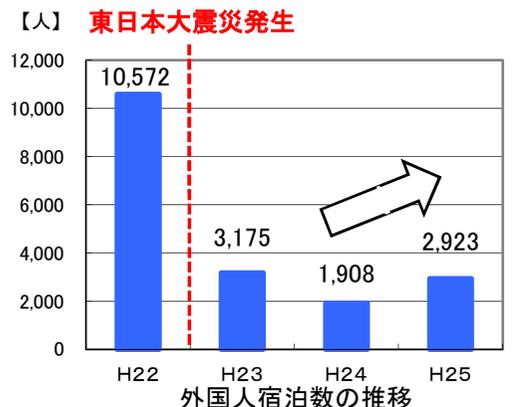


篠工芸教室

関東と東北を結ぶ東北道からの近接性などにより、那須エリアのゲートウェイとして機能



東日本大震災の際、情報館を総合案内所として活用



東日本大震災発生後、外国人宿泊数が減少していたが、平成25年から増加傾向。平成26年は、6月末時点で昨年度を上回っている状況。

＜提案の先駆性・ポイント＞

- 国際観光地化を図るため、平成26年6月に「那須インバウンド協議会」を設置し、外国人向けの観光DVD制作や東アジア（台湾等）への誘客宣伝を実施
- 那須温泉や那須サファリパークなど、各種レジャー施設が集積する那須地域の観光情報を集約し提供
- 観光客と住民の交流に資する体験教室（県指定伝統工芸品：那須の篠工芸等）を開催
- 東日本大震災の際、被災者の総合案内所を駅内に設置した経験を活かし、地域住民のみならず観光客や県外からの避難者へ必要物資の提供をする「防災館」を整備

＜実施内容＞

- 外国人観光案内所、免税店の配置や無線LANの整備
 - ※外国人観光案内所はカテゴリ1から3へステップアップを目指す
- 旅行業の登録、観光協会の本部機能設置
- 自転車の町としてサイクルステーションの設置
- 自然エネルギー等を活用した「防災館」の設置
- 役場支所等の地域住民サービス機能の設置

道の駅「^{はっこう}発酵の^{さと}里こうざき」

- 町の資産である発酵文化(酒、味噌、醤油)を「道の駅」を核として世界に発信するなど、「道の駅」から需要を創出し、地元産業の振興による雇用の創出、伝統や技術の継承などを図る。
- 圏央道開通で、成田空港アクセスなど、地域のポテンシャルが高まる中、圏央道と国道の両方からアクセスできるゲートウェイとして「道の駅」を整備。(H27年4月オープン予定)

＜地方創生拠点としての機能＞

ゲートウェイ型

インバウンド観光 発酵文化の世界への発信	観光総合窓口 町中の資源と連係した窓口	産業振興 発酵関連特産品の商品開発	防災 災害時の避難拠点
-------------------------	------------------------	----------------------	----------------



●発酵市場 (発酵商品や特産品の展示販売、情報コーナー)

健康を増進する発酵をテーマにした特産品や加工品を展示



日本酒の試飲もできる酒蔵まつり(H21～)

・人口6500人の町に約5万人が来訪
・JR東日本は新宿から直通臨時列車を運行



町内の観光資源

・国指定天然記念物の大クス(右)
・県指定天然記念物の神崎神社(下)
※1300年前に遷座



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
発酵の里こうざき	千葉県	神崎町	町道松崎356号線	新設	平成26年	単独型



＜提案の先駆性・ポイント＞

- 成田国際空港との至近距離を活かし、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食・日本人の伝統的食文化」をイメージとした「発酵の町神崎」を世界に向けてPRし、海外からの観光客誘致。
- 道の駅を核として、産業の振興、雇用の創出、人材育成、観光の振興を図り、首都圏と北総地域の人・もの・情報が交流する神崎の新しい地域拠点を創造。

＜実施内容＞

- 免税店、外国人案内所の整備
- 発酵製品を活かしたオリジナル商品やレストランメニューの開発
- 酵素を活かした発酵足湯の整備
- 道の駅と町内資源が連携した観光メニューの開発とシャトルバスの整備
- 災害時の備蓄倉庫等の整備

伊豆道の駅ネットワーク

- 伊豆半島の玄関口にあたる道の駅函南(仮称)に伊豆全体の情報発信拠点となる「伊豆ゲートウェイセンター函南(仮称)」を整備
- 伊豆半島内にある8駅(計画中含む)の道の駅を「ネットワーク化」し、地域の多様な観光情報を道の駅を起点に一体的に発信するとともに、外国人対応等を各駅が連携(機能補完)して行うことにより、伊豆半島圏域の周遊観光を促進し観光競争力を強化

<地方創生拠点としての機能> ゲートウェイ型

インバウンド観光
訪日外国人誘客による世界ブランド化

観光総合案内
ネットワークを活用した観光情報の発信

●豊富な観光資源
伊豆地域は、豊かな自然による風光明媚な景観と、文学や歴史、グルメや富士山を望めるロケーションなど多様な観光資源が豊富に点在



●道の駅のネットワーク化『相乗効果』を発揮
【伊豆の魅力向上】 市町ごとにバラバラの観光情報を一体的に情報発信(伊豆半島全域の多様な観光資源をPR)
【外国人対応力強化】 既存・新設のビジット・ジャパン案内所との連携による機能補完や、既存駅とのノウハウ共有

●情報発信拠点の整備
伊豆半島の道の駅の玄関口に立地する「道の駅函南」において、伊豆全体の情報発信拠点となる「伊豆ゲートウェイセンター函南(仮称)」を整備

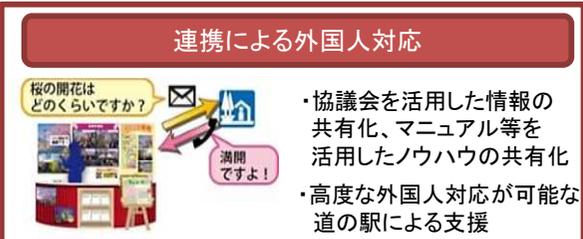
道の駅 函南(計画中)

情報発信・地場産品販売による地域活性化・防災拠点機能を兼ね備えた道の駅を整備

イメージパース

道の駅函南
伊豆ゲートウェイセンター函南(仮)

- 伊豆半島の情報発信拠点
- 観光情報
- 道の駅・道路情報
- ジオパーク情報



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
①伊東マリンタウン	静岡県	伊東市	国道135号	既設	平成14年	単独
②開国下田みなと	静岡県	下田市	国道135号	既設	平成15年	単独
③天城越え	静岡県	伊豆市	国道414号	既設	平成10年	単独
④伊豆のへそ	静岡県	伊豆の国市	国道414号	既設	平成17年	単独
⑤花の三聖苑伊豆松崎	静岡県	松崎町	県道15号	既設	平成7年	単独
⑥下賀茂温泉湯の花	静岡県	南伊豆町	国道136号	既設	平成21年	単独
⑦くるら戸田	静岡県	沼津市	県道18号	新設	平成26年	単独
⑧(仮称)函南	静岡県	函南町	国道136号	新設	計画中	単独

<提案の先駆性・ポイント>

- ネットワーク化: 道の駅及び県・7市6町の行政及び観光協会、国交省等の連携
- インバウンド観光: 外国人案内所等の設置を進めるとともに、外国人への連携対応、ノウハウ共有で、圏域としてのインバウンド対応力を強化
- 観光総合窓口: 伊豆全体の観光情報を地域協働により収集し、道の駅を核として発信することで、周遊観光の推進による圏域の競争力を強化

<実施内容>

- 伊豆全体の情報発信拠点となる「伊豆ゲートウェイセンター函南(仮称)」を整備
- インバウンド観光の促進(外国人案内所登録、免税店登録、対応マニュアル等)
- 伊豆が一体となった観光情報の発信(Webアプリ、外国語対応)
- 道の駅、駅内情報提供施設への誘導方策改善(ゲートサイン、大型マップ等)
- 道の駅及び周辺の体験型観光の情報発信(リーフレット等)

道の駅「(仮称)神戸北」

- 60万人が来園する農業振興施設「フルーツ・フラワーパーク」を活用し、道の駅を産業振興・防災の拠点として再生する
- 周辺観光客を始め、園内ホテルで増加するインバウンド観光客等に、神戸ブランドや神戸観光の拠点として国内・海外に発信
- 環境貢献都市KOBEとして環境負荷の低減を目指すとともに、防災機能を強化するため災害時にも活用できる水素ステーションの設置を検討

<地方創生拠点としての機能>

ゲートウェイ型

- 600万人以上が訪れる周辺観光施設や高速道路の接続拠点としての立地を活かし、地産地消、神戸ブランドの拠点として地方の元気を発信
- 地域防災計画における総合備蓄拠点として機能を拡充、約2万人分の備蓄体制とし、地域の避難所等を後方支援

- 日本三古泉で国内外の多数の観光客で賑う有馬温泉など神戸の観光地や、神戸ビーフなど神戸ブランドを国内・国外に発信



神戸メリケンパーク 六甲山の夜景



- ①直通路線バス
三宮 ⇄ 道の駅 ⇄ 神戸三田
神戸北 アウトレット
- ②シャトルバス
関西空港 ⇄ 三宮
- ③海上アクセス
関西空港 ⇄ 神戸空港



日本三古湯の一つであり、日本を代表する名泉。古くから愛され続け、年間150万人が訪れる。



羊やヤギ等とふれあえる高原牧場で、自然を満喫できる。年間30万人が訪れる。

インバウンド観光
神戸観光・神戸ブランドの発信

産業振興
地産地消、神戸ブランドの拠点

防災
備蓄拠点としての機能強化、伝承

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
神戸北 (仮称)	兵庫県	神戸市	県道 山田三田線	新規	平成28年	単独型

神戸ブランドの発信

神戸ビーフ 神戸ワイン

震災経験都市として 防災機能を拡充、震災の教訓を伝承

震災メモリアルパーク(中央区)、人と防災未来センター(灘区)等と連携

①直売・物販等 ②情報発信、足湯等休憩所 ③備蓄倉庫
毛布2万枚
飲料水2万本
主食・副食缶詰2万食
その他生活用品など

※イメージ図であり、今後、変更があります

<提案の先駆性・ポイント>

- 35haの広大な敷地と既存施設を再編した「道の駅」の整備を行い、周辺観光施設と連携し、神戸の産業振興の新たな拠点とする
- 情報提供施設において阪神淡路大震災からの復興、教訓の伝承などを行う市内の震災関連施設の情報発信や道の駅を活用し、災害時を想定した炊き出し訓練イベント(JA等と連携)等の防災啓発事業など、防災機能を拡充
- 関西空港からインバウンド観光客(中国、タイ等)が園内ホテルで増加しており、神戸ブランドの発信拠点とする。(H25年:0人→H26年4~8月:1.5万人)

<実施内容>

- 既存駐車場・トイレを活用し、新たに直売所や神戸ブランド物販・飲食スペース、情報発信施設や2万人分の食料等を備蓄する防災備蓄倉庫を整備
- 道の駅オープンに合わせて隣接する大沢ICにETCを整備し、利用者サービス向上のための路外パーキングサービスを実施
- 無料公衆無線LANや電気自動車充電器の設置に加え、水素ステーション整備を検討

- 瀬戸内しまなみ海道周辺は観光資源が豊富にも関わらず、四国の入口として通過され地域の周遊観光へと波及していない
- 周辺の道の駅が連携し、「瀬戸内しまなみ海道」のサイクリングコースや急流観潮船、海鮮バーベキューなど独自の観光資源の魅力を一体的に情報発信することで、サイクリストをはじめとした国内外の観光客を地域の周遊観光へと呼び込む環境を構築
- 道の駅に外国人観光案内所や免税店を設置することで、外国人観光客の受け入れ体制を構築

＜地方創生拠点としての機能＞
ゲートウェイ型

インバウンド観光 海外へのしまなみ観光メッセージ	観光総合窓口 四国・しまなみのゲートウェイ	地方移住等促進 ふるさと納税等 地域情報発信	産業振興 地域ブランドの情報発信
-----------------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------

「道の駅」の連携イベントにより周遊観光を促進



地元オリジナル商品・スタンプラリー

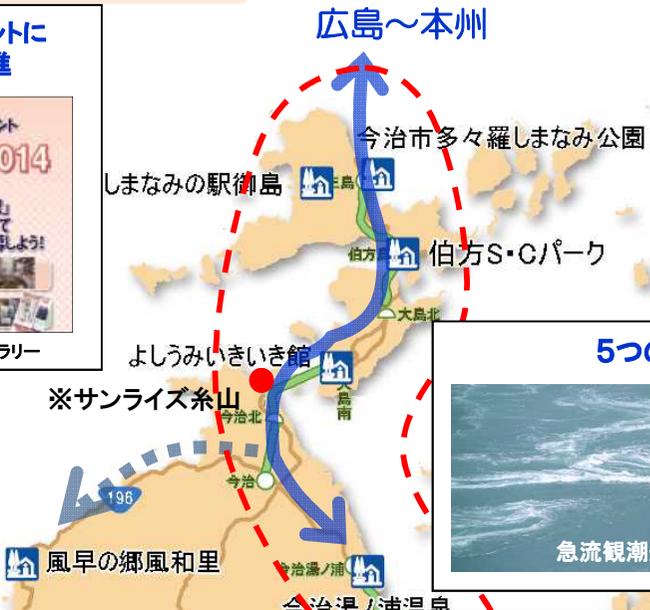


意見交換会の様子

平成25年度からは「道の駅連携プロジェクト」として5つの道の駅と今治市、愛媛県、松山河川国道事務所、地元大学等の産官学の関係者により地域活性化に向けた意見交換会を実施し、周遊型イベントの企画・開催、観光マップを作成。

＜提案の先駆性・ポイント＞

- しまなみ海道のサイクリングロードは、世界の7つのすばらしいサイクリングロードの一つに選ばれる(※)など、サイクリストの聖地として国内外への認知度が上昇。外国人観光客の増加と合わせ5つの道の駅全てに外国人案内所等の整備により外国人の受け入れ体制を構築。※米国のCNN旅行情報サイト
- 「道の駅」が一体的に受け入れ体制を構築できるよう、平成25年度から産官学の関係者で意見交換会を開催。連携策や周遊観光方策等について議論。



サイクリストの聖地として国内外のサイクリストを誘致



サイクリング世界大会「サイクリングしまなみ」の様子 H26.10.26開催



多言語の注意喚起看板

5つの「道の駅」が連携して地域の魅力を情報発信



急流観潮船



海鮮バーベキュー



造船のまち



しまなみ海道周辺の観光マップ

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
湯ノ浦温泉	愛媛県	今治市	国道196号	既設	平成10年	一体型
伯方	愛媛県	今治市	国道317号	既設	平成11年	単独型
多々羅	愛媛県	今治市	国道317号	既設	平成11年	単独型
御島	愛媛県	今治市	(主)大三島上浦線	既設	平成11年	単独型
よしうみ	愛媛県	今治市	国道317号	既設	平成14年	単独型

※「道の駅」名は略称
※新たに「今治市サイクリングターミナル(サンライズ糸山)」も道の駅申請予定

＜実施内容＞

- 外国人観光案内所及び免税店の設置
- 平成27年度観光地域おこし協力隊を募集し、各道の駅を重要ポイントと位置付け、観光PR及び海外サイクリストへの情報発信を実施
- 今治市サイクリングターミナル(サンライズ糸山)周辺を自転車に特化した「道の駅」として新たに整備を検討。(トイレ、駐車場、自転車整備ヤード、自転車格納庫、インフォメーションコーナーなど)
- 加工所の拡充、積極的な情報発信等による商品のブランド化。
- 地元産品を活用したスイーツラリー、オリジナル商品ラリーなどを展開
- インターンの受入・ふるさと納税等の情報提供

道の駅「(仮称)あつたか・あいろーど」

- 130km全線で休憩施設(道の駅)がない国道231号における「情報発信基地」として厚田地域へ呼び込むゲートウェイへ
- 厚田地域の住民の議論の積み重ねから導き出された「近説遠来※」の思想による地方の創生拠点化へ

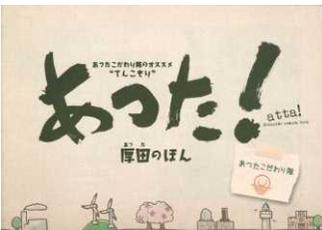
＜地方創生拠点としての機能＞

ゲートウェイ型

観光総合案内 地域全体の観光案内	産業振興 地元農林水産物の付加価値向上	防災 吹雪時の避難所
---------------------	------------------------	---------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称) あつたか・あいろーど	北海道	石狩市	国道231号	新設	平成30年	一体型

※【近説遠来】(孔子の論語より)
 「近説」～住民が地域の暮らしを楽しむ仕組み。厚田区や国道沿線の豊富な魅力を、住民自らが掘り起こし、磨き上げ、育てる過程において、地域の誇りや元気の醸成を図る。
 「遠来」～地域の魅力を発信し人を呼ぶ仕組み。地域の魅力を住民の手でコーディネート、発信し、地域外からの活力を取り込む「呼び水」的役割を担うとともに、道の駅来訪者の利便性や地域の特性を活かした魅力体験のサポート機能を確保。また、日本海オロロンラインを交流軸とする広域観光連携の中継拠点としての役割を果たす。



- ・地域住民で構成された団体により作成された厚田を紹介する冊子
- ・直売所、朝市等のイベント、特産品等の情報を掲載



札幌市と留萌市を結ぶ国道231号には道の駅が存在しない日本海沿岸の最寄り道の駅までは約110km離れている



■厚田区における活動団体と取り組み

- 厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」
スポーツ・食をテーマに区民の健康増進・世代間交流
- あつたの森を支援する会「やまどり」
森林施業の体験を通じて区内の環境保全、森林の歴史を共有した山づくり
- NPO法人あつたライフサポートの会
地域の人たちによる支えあいによる日常生活支援、健康増進、福祉の向上
- 厚田資料室サポートの会
厚田区ゆかりの著名人を中心にPRし、新たな地域づくり、歴史文化の伝承
- 地域教育分科会
「地域」「保護者」「学校」が一体となった地域教育
- 厚田アクアレル実行委員会
水彩画展を通じて厚田の魅力をPRし、優れた芸術・文化による人間性を育む
- 厚田こだわり隊
厚田の「土地」「味覚」「らしさ」に拘り、漁・農・商・観等の連携による地域活性化

■朝市等まちへ呼び込むゲートウェイとして機能

【厚田港朝市】

食事処が施設内に無く販売のみ行われている

恋人の聖地
厚田資料館

(仮称)あつたか・あいろーど

道の駅は漁港に近接しており、地域の「食」を振る舞える場として機能

市街地(朝市)

新鮮な海産物(朝市)

地場産品を使った地域の郷土料理を提供

地域の特産品を販売 石狩の飯寿司(いずし)

＜提案の先駆性・ポイント＞

- 「北の海」をテーマとする全国規模の水彩画展や海産物(ホッキ貝、シャコ等)を活用した四季の味覚イベントの開催等、**豊富な魅力を地域住民が主体となり自ら掘り起こす**ことで、活力や賑わいを創造し、地域の再生につなげる
- 四季折々の海産物や海水浴等の地域の魅力を発信することで、地域外からの活力を取り込む「呼び水」的役割を担い、道の駅来訪者の**魅力体験のサポート機能を確保**

＜実施内容＞

- 日本海の奇岩や洞窟を見ることが出来る「浜益沿岸カヌー」や、国道が開通するまで、地域住民の生活道路として100年以上利用された歴史ある「濃昼山道トレッキング」等の地域固有のアクティビティガイド機能
- 地元農林水産物(望来豚、浜益牛、ホッキ貝、シャコ等)直売所の整備
- 無料公衆無線LANの整備
- 水彩画展、四季の味覚イベントの開催

- 東日本大震災による津波で被災したタピック45(旧道の駅)の遺構を保存しつつ震災伝承・地域復興の核として発展的に再生。
- 三陸沿岸地域のゲートウェイとして震災の実情と教訓を国内・海外に向けて発信。

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

観光総合案内 三陸沿岸地域のゲートウェイ	インバウンド観光 海外への復興メッセージ	防災 震災伝承・津波防災文化
-------------------------	-------------------------	-------------------

- 被災地をつなぎ震災の実情と教訓を伝承
- 津波防災文化の情報発信

震災の実情
震災遺構
【たろう観光ホテル】



“如何にして生きのびたか”
を国内外に情報発信



震災の教訓
津波防災文化
【先人の教えが多くの命をすくった】
【津波てんでんこ】



三陸沿岸地域のゲートウェイ
(国内・海外・修学旅行)

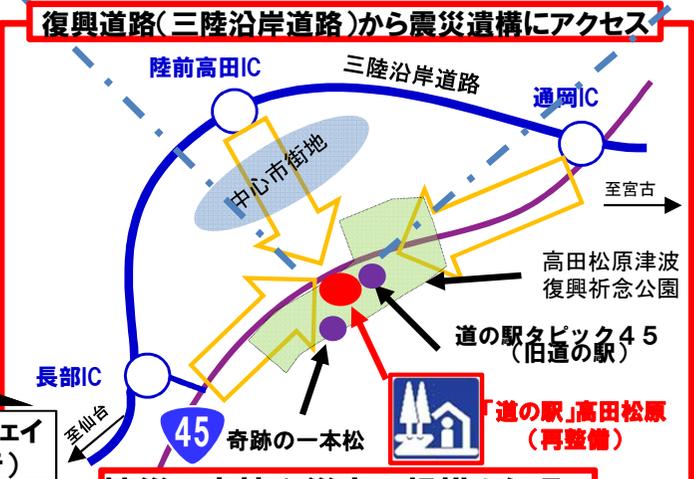


実物(震災遺構等)や実写を効果的活用



被災後のタピック45内部
津波浸水深
※内壁が破損

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
高田松原	岩手県	陸前高田市	国道45号	既設	平成5年	一体型



津波浸水したタピック45
※3人が屋根に避難し助かった

高田松原津波復興祈念公園 計画区域

タピック45(旧道の駅)

奇跡の一本松

被災した道の駅「高田松原」(再整備)



<提案の先駆性・ポイント>

- 震災遺構となったタピック45(旧道の駅)を、高田松原津波復興祈念公園と連携して再生し、復興・震災伝承のための地域資源として活用、新たな拠点を形成。
- 三陸沿岸地域の震災遺構巡りや道路情報・気象情報等の広域案内機能を備えた、地域全体のゲートウェイとして周遊を推進(岩手県・三陸沿岸地域7市4町3村・国交省が連携)。
- 被災の実情や災害の規模等を伝承するために実物(震災遺構等)や実写を効果的に活用。

<実施内容>

- 「道の駅」遺構を保存し高田松原津波復興祈念公園と一体的に整備。
- 岩手県・陸前高田市と連携し津波の実情・災害の規模、津波防災文化を国内外に情報発信する拠点を整備。
- 津波防災教育の拠点となる機能を具備。
- 三陸沿岸地域の震災の実情と教訓を伝承するゲートウェイとして情報発信機能を整備

- 地域資源(伊達政宗の史実・文化等)を地域在住外国人や語り部等を活用しインバウンド観光も促進する観光拠点を構築。
- 「道の駅」と岩出山地区(町内)・温泉を結ぶ周遊交通を確保。温泉・地域資源をパッケージ化した独自観光商品を開発・販売
- 鳴子峡や温泉郷を「見る観光」に、地域の文化・芸能を「知る観光」を組み込み、一段高いレベルの観光を提供。

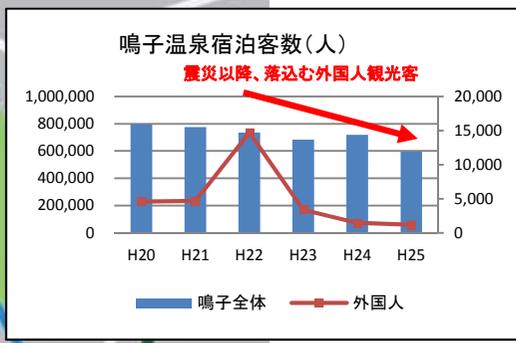
<地方創生拠点としての機能>

ゲートウェイ型

観光総合案内
地域の歴史・伝統と温泉の魅力発信

地域福祉
高齢者の活力創出

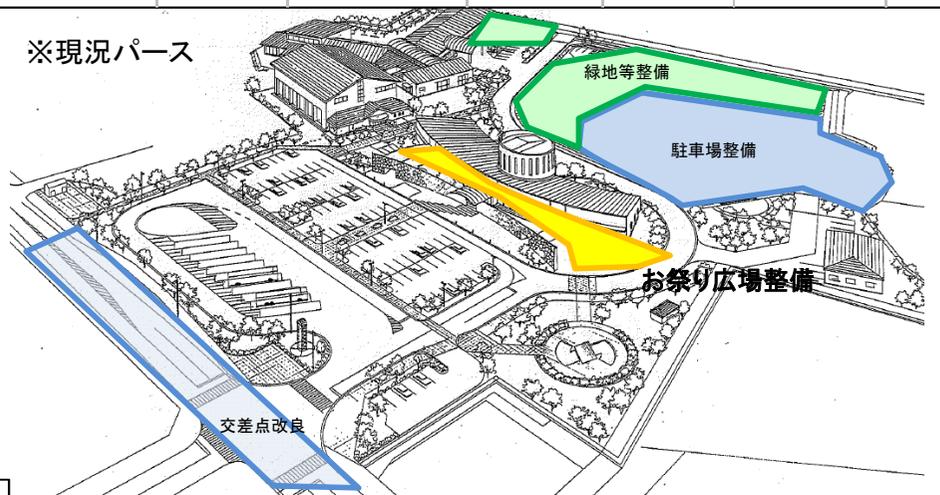
防災
県北横軸の防災拠点



宮城県観光統計資料(大崎市調査)

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
あ・ら・伊達な道の駅	宮城県	大崎市	国道47号	既設	平成13年	一体型

※現況パース



国道にはみ出した駐車待ち渋滞



駐車場は常に満車状態

<実施内容>

- 外国人案内所登録を実施し地域在住外国人や語り部による伊達藩の文化・史実を外国人等に観光案内する「いきな昔話ツアー」を商品化
- 既存コミュニティ交通を観光周遊ルート上を運行させ、住民と観光客が相乗りできる交通手段を提供
- 駐車場拡張、交差点改良、駐車場案内システムによる駐車動線最適化
- 防災機能の追加(発電機、受水槽、物資保管庫)

<提案の先駆性・ポイント>

- 地域の史実・文化(知的好奇心)に基づく観光ルートの創設
- 地域在住の人的資源(外国人、語り部)を活用した多様な観光案内
- 「道の駅」、地域、著名観光地の周遊をパッケージ化した地域独自の観光商品

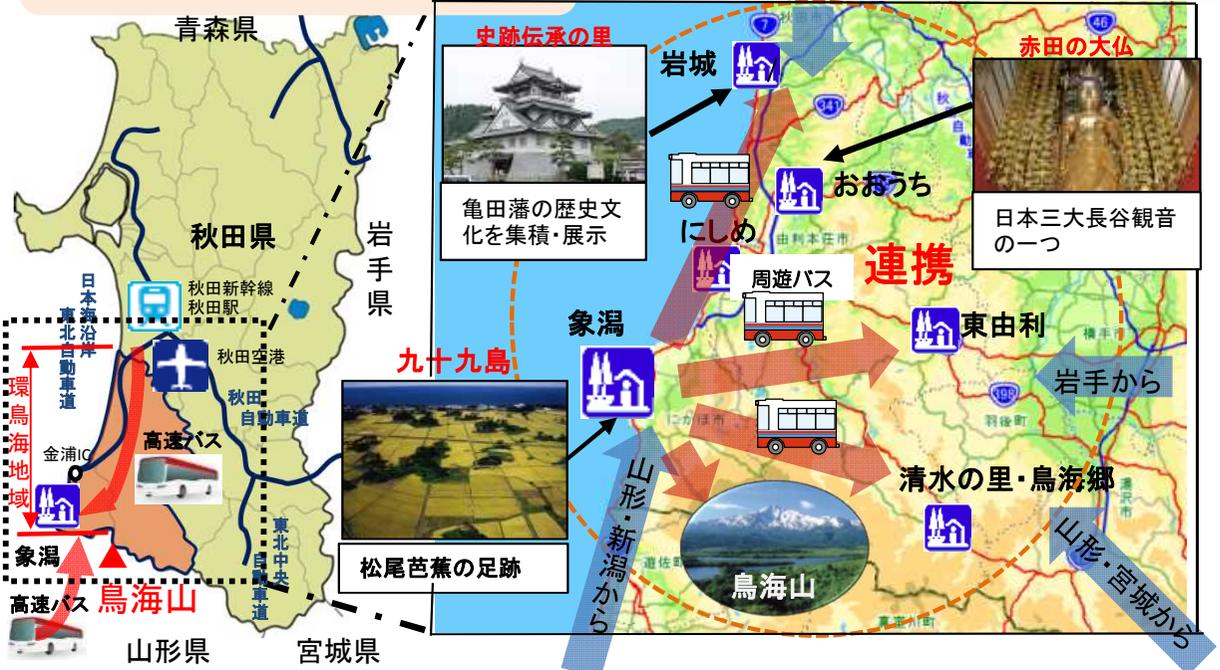
- 「鳥海山」・名勝「九十九島」・「岩がき」等の資源を有する「道の駅」象潟に情報発信拠点、交通結節点を整備しゲートウェイ化。
- 環鳥海の6駅が連携し、周遊交通を確保した上で鳥海山・特産品を活かした広域周遊観光圏を形成。
- 環鳥海地域の観光情報ワンストップサービスと各駅の個性(独自商品)を活かした周遊観光の活性化を推進。

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

観光総合案内
6駅連携による環鳥海地域、そして秋田のゲートウェイ

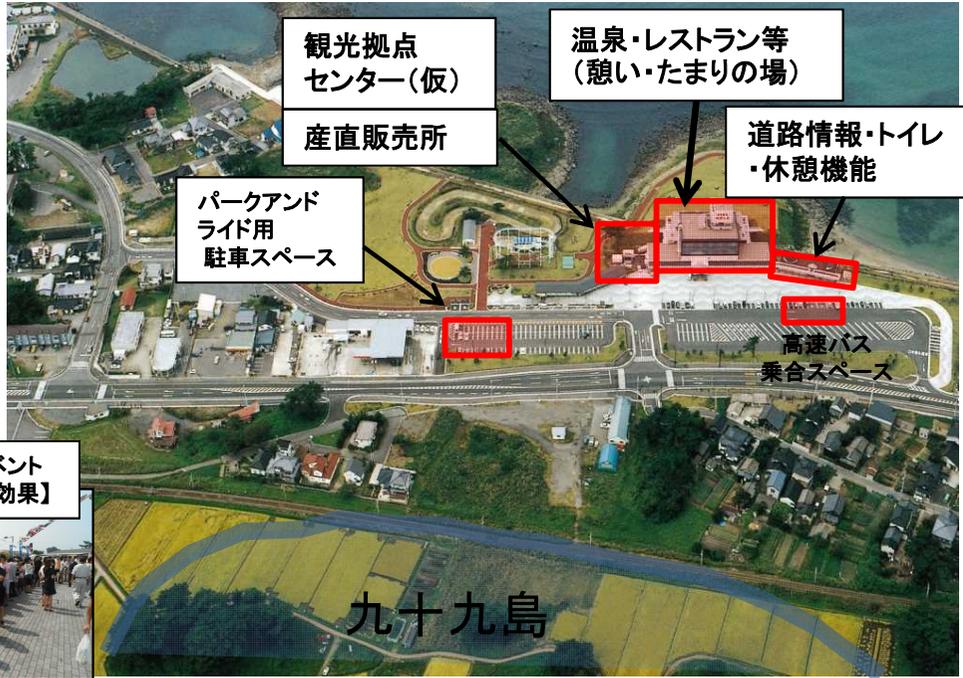
インバウンド観光
環鳥海地域の海外への魅力発信

産業振興
鳥海山の恵みを6次産業化・観光資源化

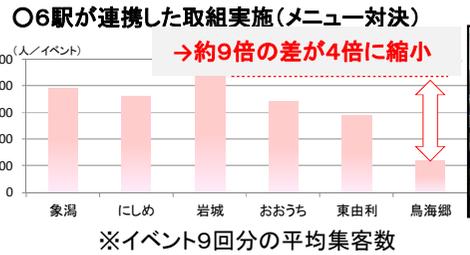


駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
象潟	秋田県	にかほ市	国道7号	既設	平成9年	一体型

<道の駅象潟におけるゲートウェイ機能>



【6駅連携の効果】



【6駅連携イベントによる集客効果】



<提案の先駆性・ポイント>

- 環鳥海地域のゲートウェイとしてワンストップで総合観光情報の発信
- 二次交通・周遊交通の拠点化を図り、パーク&ライド等による結節点の構築
- 地域内の6駅連携による個性を活かした駅間交流と、周遊による活性化
- 各駅独自の6次産業化等の展開と競争による活性化

<実施内容>

- 観光拠点センターを整備し環鳥海広域観光情報発信
- 空港・新幹線駅から「道の駅」への高速バスやレンタカーなどの交通手段を提供。パーク&ライドを導入し、地域内のコミュニティ交通に乗り換え「道の駅」や「地域内観光名所」を周遊できるミニ周遊観光を提供する。
- 6次産業化に向け、既存加工場(2駅)を活用した6駅連携による商品開発

(「道の駅」展望台から九十九島の絶景が前面に広がる)

- 国際交流協会等の関係機関と連携を図り、観光総合窓口を開設。県全域周遊観光のゲートウェイとして国内外に広く情報発信。
- 地理的優位性を活かし東京・福島方面からの観光客をターゲットに高速道路・高速バスと連携した交通結節点(P&R)を構築。
- 県全域のインバウンド対応を始めとした多様な特産品や体験型観光の情報を含む複数の観光ルートを提供する拠点。

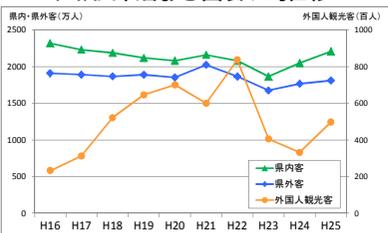
<地方創生拠点としての機能> ゲートウェイ型

観光総合窓口
山形県の南の玄関口における観光拠点

インバウンド観光
新たな需要創出

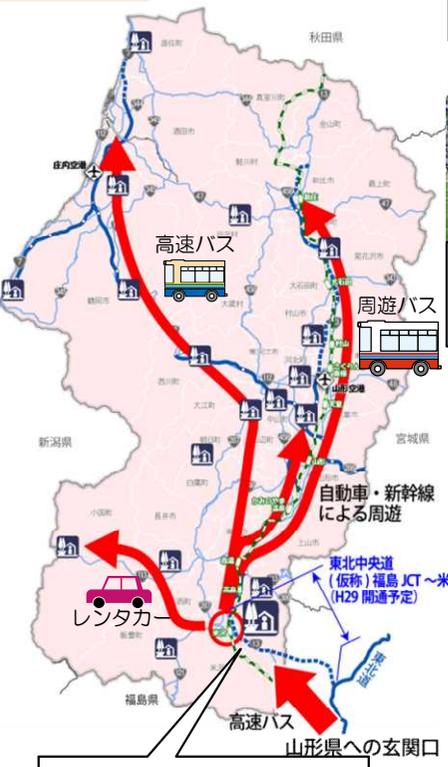
産業振興
体験型観光と地域特産品に発信

▼山形県観光客数の推移



外国人観光客は震災で半減
道の駅を拠点に震災前水準に戻りつつある国内客に加えて外国客を増やし、観光客全体の増加を目指す

出典: 県内客、県外客...山形県観光客数調査
外国人観光客...外国人旅行者山形県受入実績調査



上杉まつり

出典: 米沢市

米沢市最大イベントの上杉まつりをはじめ、県内各地のイベント情報を道の駅で発信

米沢牛

出典: 米沢市

国内屈指の米沢牛をはじめ「山形ブランド」を道の駅で堪能



※イメージ図のため、今後変更あり



インバウンド対応

外国人観光客にも対応した観光総合窓口を道の駅に設置(さくらんぼ農園での風景)

道の駅「よねざわ(仮称)」
東北中央道と連携し、県内全域の観光拠点となるゲートウェイとして機能

<提案の先駆性・ポイント>

- 山形県全域の周遊観光を支援するため、県内全域の情報発信だけでなく、宿泊施設や交通機関の予約が可能な観光総合窓口の設置
- 高速バス、観光周遊バス、路線バスの停留所やカーシェアスペースを設置し、地域内と地域外の総合的な交通結節点として機能

<実施内容>

- 「高速バスからレンタカー」「自家用車から観光周遊バス」に乗り継ぐ、パーク&ライド施設を整備
- 外国人観光客にも対応した山形県全域をカバーする観光総合窓口を設置
- 特産品の展示施設・地域イベント体験施設や農産物加工施設の設置

- 中部縦貫自動車道大野東ICの真正面に位置し、越前大野城や化石等の地域資源を情報発信することで、ここを出発点として市内の回遊を促す「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核として整備
- 朝市等の地域情報や地域の観光案内、化石発掘等の体験や四季を通じた山歩き情報等を総合的に提供し、シャトルバス等での市内への誘客、交流人口の拡大を図ることで地域を活性化

<地方創生拠点としての機能>

ゲートウェイ型

越前大野城



昭和43年に再建。石垣は野面積みという工法で貴重な史跡といわれ、福井県指定文化財に指定。雲海に浮かぶ城がとても美しく、「天空の城」としても知られる。

観光総合窓口
おおのブランド情報発信

インバウンド観光
外国人観光案内所・EV充電設備

防災
広域防災拠点の機能

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
結の故郷	福井県	大野市	国道158号	新設	平成32年	一体型

大野市のゲートウェイとして整備し、中部縦貫自動車道の利用者を市内へ誘客、体験・交流機会を提供し、交流人口を拡大

福井県立恐竜博物館



肉食恐竜としては日本で初めて全身骨格が復元された恐竜骨格を含め40体以上の恐竜骨格をはじめとする千数百点もの標本などがある。

和泉郷土資料館 **化石発掘体験**



化石の宝庫、和泉地区にあり、世界最古級のティラノサウルスの歯の化石や日本最古の鳥の足跡の化石など多数の化石を展示。化石発掘体験も実施。

寺町通り・七間朝市



城下町大野を象徴する町並みや400年以上の歴史を持つ朝市が楽しめる。

荒島岳



「大野富士」とも呼ばれ、福井県内では唯一の日本百名山に選ばれた名峰。

「道の駅」結の故郷



南海トラフ巨大地震等の発生時に被害が少ないと想定される日本海側から近畿圏・中部圏首都圏の後方支援を行える広域防災拠点の機能を整備

後方支援のイメージ



<提案の先駆性・ポイント>

- 大野市のゲートウェイとして地域全体の観光案内、地域資源を活かした体験・交流機会を提供し、市内への誘客及び回遊性向上を図る観光周遊拠点
- 首都圏直下型地震や南海トラフ巨大地震発生時に、近畿圏・中部圏・首都圏の後方支援が行える広域防災拠点の機能を整備(防災計画(改定中)で、道の駅を活動拠点として機能)

<実施内容>

※イメージ図であり、今後、変更があります。

- 地域の観光案内、レンタル自転車等の受付、化石発掘等の体験や荒島岳をはじめとする山歩きなど市内全域の情報を発信する総合的なインフォメーションスペースの設置
- 市内や日本百名山である荒島岳登山口に誘客・回遊できるシャトルバスやレンタル自転車を運営
- ICの真正面という地の利を活かし、高速バスの停留所を設置
- 地域移住に必要な情報やふるさと納税に関する情報の提供
- 地元生産者からの調達による雇用の創出
- 非常用電源装置、太陽光発電、ヘリポート、備蓄施設の整備、救援物資の集積・配送の実施

道の駅「あおき」

- 地元NPOの体験学習で年間2,148人(うちインドネシアなどからのホームステイ214人)が来訪する「体験学習の村」(H25実績)
- 特産品の開発・継承及び高齢者宅配サービス等の拠点機能を新設、体験交流拠点機能の拡充、ドクターヘリによる救命緊急患者搬送拠点、大規模災害時での自衛隊等の参集可能な村内唯一の防災拠点として機能の大幅な強化を図る。

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

観光総合窓口 地域資源を活かした体験・交流会	地方移住等促進 移住情報のワンストップ提供	産業振興 特産品継承・開発	防災 自衛隊等の参集可能な拠点
---------------------------	--------------------------	------------------	--------------------

長野県の東部山間部に位置し、H18から始まった合宿受け入れから体験学習が広まり現在、活発に行われている。

「道の駅」あおき

松本市

信州大学医学部付属病院※

佐久市

厚生連佐久総合病院※

※ドクターヘリによる救命緊急患者搬送先(想定)

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
あおき	長野県	青木村	国道143号	既設	平成17年	一体型



「タチアカネ」を使用したそば
【青木村のみで栽培の新品種を使用して道の駅で提供】



「見返り漬け」
【地域の特産:道の駅売り上げの50%を占める】



「松茸」
【地域の特産:道の駅で販売】



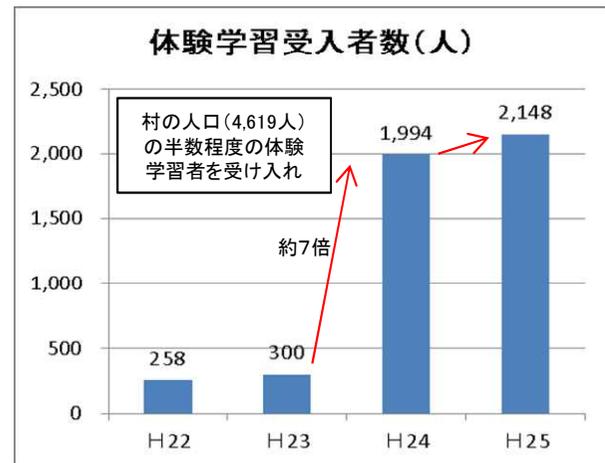
リフレッシュパークでの体験学習
平成26年8月インドネシアの地方公務員(観光部門の若手メンバー)



道の駅施設での体験学習
平成25年8月坂戸市の小学生



屋外での体験学習
平成25年8月千葉市の小学生



<提案の先駆性・ポイント>

■合宿受け入れから始まった体験学習がH24年度NPO法人化し、活動を活発化。H25年度実績で受入人員がH23年度から7倍。外国人受入も本格化。道の駅を拠点として体験交流窓口を設置し情報発信を強化するとともに、旅行業登録によりオプションツアーを旅行会社へ売り込みを行う等、更なる体験交流人口を増加させ、将来的な定住希望者の増加を図る。

<実施内容>

- 農産物直売所を新築、観光案内、高齢者宅配サービスの拠点整備、体験交流、定住者への情報提供相談窓口等の設置。
- 農産物加工施設を増築、見返り漬け生産者の育成、特産品の開発機能の充実。
- 蓄電池、ガス備蓄タンク、ヘリポート等の防災機能施設 等。

道の駅「どんぐりの里いなぶ」

- 市全域をフィールドとして、自然・里山体験から先進的スマートモビリティ体験まで、「道の駅」を拠点とした様々な体験機会を創出
- 地域の体験観光の総合窓口機能(各種体験の受付窓口・情報発信拠点)を「道の駅」に集約
- 地方移住等の促進を図るため、「道の駅」の窓口機能に地方移住に係る情報発信(空き家情報、生活情報等)機能を付加

<地方創生拠点としての機能>

ゲートウェイ型

観光総合案内
地域資源を生かした体験・交流機会の提供

地方移住等促進
空き家情報や就労情報の提供

産業振興
地域を元気にする拠点として再整備

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
どんぐりの里いなぶ	愛知県	豊田市	国道153号	既設	平成10年	一体型

里山暮らし体験館

自給自足によるかつての里山の暮らしを参考に、エコで自然にやさしい循環型の里山暮らしの知恵と技を学ぶ施設

リニア中央新幹線の開業を見据え、新東名及び既存高速道路を結ぶ交通の要衝として、自然・山里体験型観光の交流拠点化を図る。



稲武どんぐり工房

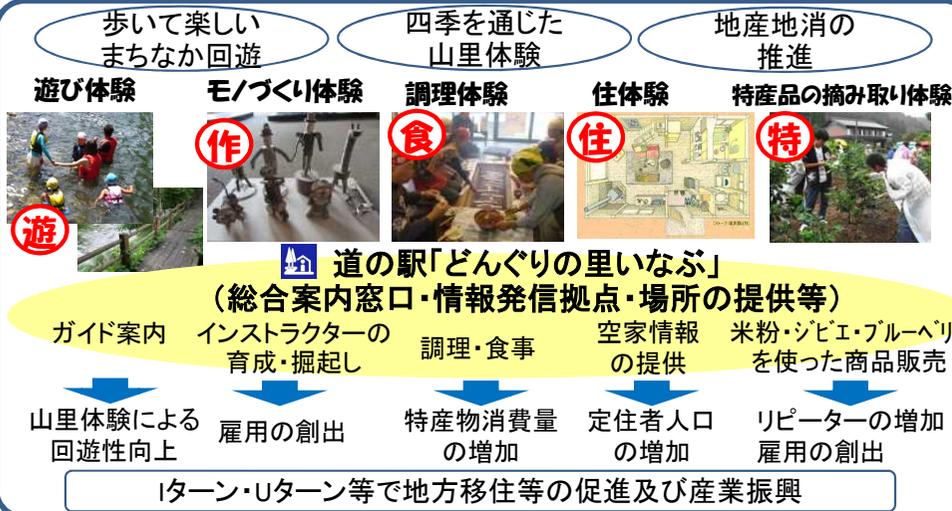
山里に残された「自然」や受け継がれた「農林業」、あるいは「食」や「工芸」などの知恵と文化を、体験を通して伝える施設

三州足助屋敷

中山間部の農家の暮らし(明治~昭和30年頃までを想定)を再現 さらには紙すきの体験実習等を行う施設

とよたエコフルタウン

次世代の環境技術を集約した全国初の地区として、安心して活力と魅力あふれる低炭素社会を提案した施設



<提案の先駆性・ポイント>

- 稲武地域内及び近隣の観光・地域資源を生かした体験・地域交流のための機会を増やすとともに、地域の体験観光の総合窓口機能(体験受付・情報発信)を「道の駅」に集約
- 外国人観光案内所の整備や、多国語表記のガイドマップを作成。(外国人観光客対応)
- 地方移住に必要な空き家情報・生活情報等を情報発信・案内
- 年々地域活力が低下する中で、「道の駅」を産業振興の「場」として再生し、周辺地域と連携した地域経済を支える創生拠点を形成

<実施内容> 「道の駅」を拠点とした様々な体験機会の創出

- 観光案内機能の拡充(各種体験受付コーナーの設置)
- 稲武地区内の回遊性を高める自然体験型拠点の整備
- どんぐりの森、棚田のラベンダーなどを散策できる遊歩道の整備
- 基礎機能の強化(情報モニターの設置・無料公衆無線LAN)
- EV充電施設(急速充電器1基、普通充電器1基)の配備
- 直販所の拡充・地域振興施設リニューアル

道の駅「(仮称)たいじ」

- 日本の捕鯨の水産業発展の糸口となった古式捕鯨発祥の地として400年の歴史のある「くじらの町」太地のゲートウェイとして、くじらと共に歩んできた歴史・文化の情報発信施設、観光案内所を整備し、地域観光の出発点として運用
- 森浦湾で進められている「森浦湾鯨の海構想」の拠点とし、湾に放流したくじら等と触れ合う環境学習や生涯学習の場を提供

＜地方創生拠点としての機能＞
ゲートウェイ型

観光総合窓口
くじらと触れ合える場を提供する
来訪者を「おもてなし」する

インバウンド観光
地域の歴史文化の理解及び
新たな体験型環境学習を促す

産業振興
くじらの加工品等の太地オリジナル商品開発
くじらグッズのブランド化

「森浦湾鯨の海構想」将来構想図



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
たいじ (仮称)	和歌山県	太地町	国道42号	新設	平成28年	一体型



＜実施内容＞

※イメージ図であり、今後、変更があります。

- 太地の鯨肉の食文化や捕鯨などくじらと共に歩んできた歴史・文化を正しく理解してもらうために、情報発信施設(環境・生涯学習のための機能を含む)の設置
- 周辺観光情報等の提供・受付を行う観光案内所等の配置
- 鯨の加工品等の販売、提供を行う物販施設、レストランの設置
- 誰もが快適に利用でき、日本一トイレの綺麗な道の駅として感じてもらえるように整備・運用

＜提案の先駆性・ポイント＞

- くじらと触れ合える森浦湾の「ゲートウェイ」として、環境学習や生涯学習の受付や、古式捕鯨発祥の地としての歴史や鯨肉の食文化など、くじらと共に歩んできた太地町の歴史・文化・伝統を発信する拠点として運用するとともに、周辺の観光情報等も提供。
- 「おもてなし」を表現する象徴として、地域全体が「日本一トイレの綺麗な観光地」づくりを目指す。

道の駅「^{しんわ}神話の^{さと}里^{しろ} 白うさぎ」

- 神話「^{いなば}因幡の^{しろ}白うさぎ」を中心に、山陰海岸ジオパークの地形地質遺産、古代山陰道の遺跡など歴史や自然の継承を担う
- 歴史・自然などの共通テーマを通じ、周辺観光施設及び他の「道の駅」との連携拠点を担う施設を目指す

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

観光総合窓口 神話を中心に歴史・自然の観光を展開	産業振興 タイアップ商品や地元産品を活用	交流促進 公共交通の乗継拠点化、生きがいづくり
------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------

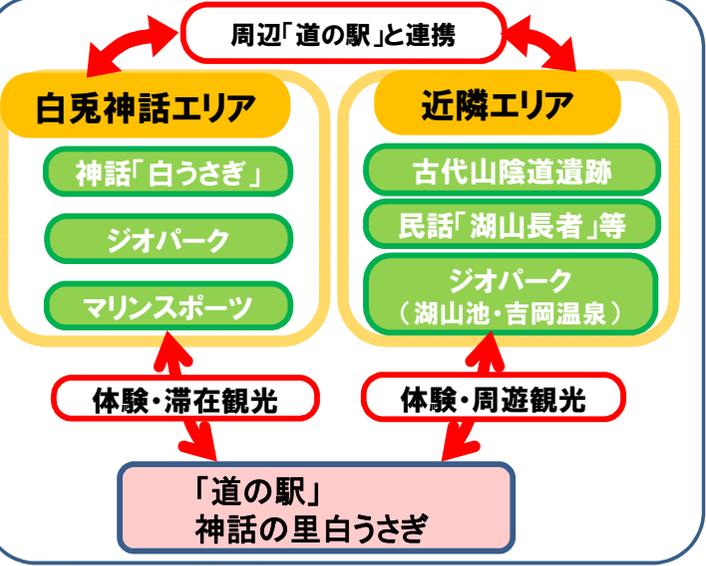
神話『^{いなば}因幡の^{しろ}白うさぎ』

● 淤岐の島に住む1匹の白兎が海を渡るため鮫を騙したが、鮫の逆鱗に触れ毛皮をはがされてしまう。白兎が痛みで泣いていたところ、因幡の国に住む八上姫をめぐると通りかかった^{おおくにぬしのみこと}大国主命の兄神に、面白半分に海水で体を洗うように言われ、ますます容態が悪化してしまう。
 ◎ 苦しむ白兎に、遅れて通りかかった^{おおくにぬしのみこと}大国主命が正しい対処方法を受けたところ、白兎の容態はみるみる回復した。たいそう喜んだ白兎が、お礼として^{おおくにぬしのみこと}大国主命と八上姫との縁を取り持った物語である。

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
神話の里 白うさぎ	鳥取県	鳥取市	国道9号	既設	平成17年	一体型



<連携拠点イメージ>



周辺「道の駅」と連携する仕掛け

- ★ 白兎神話を元にした商品
- 大国主命は、「道の駅 神話の里白うさぎ」のみで販売
- 八上姫は、「道の駅 清流茶屋かわはら」のみで販売
- 2つ集めると台紙がハートマークとなる



淤岐の島



白兎神社



古代山陰道の出土品



白兎観光協会 ボランティアガイド

<実施内容>

- 地形地質遺産や古代山陰道出土品の展示施設、神話学習コーナーを整備。さらに体験・周遊観光のためコミュニティバスを運行
- 周辺道の駅と連携したタイアップ商品、特産品の開発・販売
- 道の駅に観光協会職員を配置し、地域ボランティアガイドと連携した“おもてなし”を実践
- マリンスポーツやジオパークウォーキングの拠点化、スタッフ配置
- 長時間の滞在や休憩が可能な、緑陰広場を整備

<提案の先駆性・ポイント>

- 神話「因幡の白うさぎ」、山陰ジオパークなど地域の歴史や自然を題材とした、広域に渡る他の「道の駅」との連携を実施中。神話に関連したマスコットの販売や、新商品の開発により広域的な観光・地域振興が期待できる。
- 鳥取自動車道、山陰道の整備が進む中、くつろぎをテーマに滞在可能な休憩施設を整備。道の駅が拠点となり周遊観光による交流・産業振興を促進する。

- 「道の駅」を拠点に、地元11団体で構成された「豊田ほたる街道の会」が、室町時代からの大陸貿易の“肥中街道”、毛利氏の拠点萩と赤間関(下関)を結ぶ“赤間関街道”の歴史・文化を伝える活動を実施
- 田園にホテルが乱舞する豊かな自然環境を伝承する“ほたる舟ツアー”を「道の駅」で運営
- これらの活動を通じ、地域振興を担う人材育成を「道の駅」で行う

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

観光総合窓口
山口県西部の観光ゲートウェイ

地方移住等促進
観光協会事務所設置、スタッフ増強

産業振興
6次産業化商品の強化、ブランド開発
生産者からの調達による雇用機会創出

豊かな自然に舞う“ほたる”と
歴史ある“街道”で地域づくり、人づくり

- 豊田地域は、大内氏の大陸貿易の玄関となった「肥中」と「山口」を結ぶ“肥中街道”、毛利氏の拠点「萩」と「赤間関」を結ぶ“赤間関街道”が交差する交通の要衝として「市」で栄えた街。また、“ほたる”が乱舞する自然豊かな町でもある。
- 当地域では、道の駅を拠点に、地元・観光協会など11団体で構成される「豊田ほたる街道の会」が、荒廃した“肥中街道”の再生や“ほたる”の生息環境保全に取り組んでいる。
- 道の駅では、これら自然・歴史・文化等の活動を通じ、地域内外との交流を支える人材育成に取り組んでいる。

■ 肥中(ひじゅう)街道と赤間関(あかまがせき)街道



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
螢街道西ノ市	山口県	下関市	県道34号	既設	平成16年	一体型



自然豊かな豊田町の田園風景を基調に、昔ながらの農村集落をイメージした駅舎



荒廃していた肥中街道を再生



道の駅を起点に肥中街道を歩く
梨の花ウォーク



“地域づくり・人づくりフォーラムin豊田”
地域交流及び人材を育成



「道の駅」入口・長屋門

<提案の先駆性・ポイント>

- 地元団体が道の駅を拠点に歴史・文化を活かした交流イベントやホテルの環境保全活動を実施中。道の駅は地域振興を担う人材教育の場として貢献。
- 「道の駅」内に観光協会事務所を設置、スタッフを増設、交流型イベントを強化
- 「道の駅」内加工所の6次産業化商品を増強。「道の駅」による産業振興、雇用創出の効果が期待される。

<実施内容>

- 利用者からの要望が多い温泉施設をバリアフリー化するなど改修整備を実施、施設の稼働率を向上させる
- 「道の駅」内の6次産業化商品の開発を強化。雇用機会の創出を行う
- 情報コーナーに観光協会事務所を新たに設置、スタッフの増強を行う。また、外国人観光客案内所(JNTO認定)登録への取り組み
- 「道の駅」内への公衆無線LAN設置

- 燃烧系・癒し系の体験型観光＋生物多様性を学ぶ干潟環境教室を「道の駅」を中心に実施し観光交流人口の拡大を図る
- 産業活性化施設「海道しるべ」(6次産業化の拠点)と連携し、「道の駅」オリジナル商品を開発
- 「道の駅」を拠点とした買い物弱者への宅配サービスを強化するため、空き店舗等を宅配サテライト施設として整備

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

観光総合案内
地域資源を活かした体験・教育と周遊観光の拠点として機能

産業振興
特産品を活用したオリジナル商品の開発により魅力向上

地域福祉
買い物弱者への宅配サービス強化

産業活性化施設連携
みち「海道しるべ」

日本三大稲荷
ゆうとくいなりじんじや「祐徳稲荷神社」

地域福祉への貢献
「宅配サービス」

みち
「海道しるべ」

「道の駅」鹿島

ひぜんはましゆく
肥前浜宿

世界一になった地域の特産品
ひぜんはましゆく肥前浜宿「日本酒」

環境教育施設の充実
ミニ水族館

有明海

日本一の干潟を活かした体験
「ガタリンピック・干潟体験」

地域資源を活かした体験
「ニューツーリズム」

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
鹿島	佐賀県	鹿島市	R207号	既設	平成6年	単独型

現況写真

有明海 干潟

「道の駅」鹿島

干潟体験者数

「道の駅」登録
以降利用者が増加していたが、近年減少傾向

700 15,941 12,265

H6 H16 H25

「道の駅」鹿島

- <提案の先駆性・ポイント>
- 日本一の干満差を誇る有明海等を活かし、豊富なメニューの自然体験、環境に関する教育、またニューツーリズム等による“ひと”の交流拠点を形成
 - 地域活力の創造・産業活性化を図る施設「海道しるべ」と連携し地域の特産品を活用した新たなオリジナル商品の開発。
 - 地域密着型の宅配事業と空き店舗活用による宅配サテライト施設の整備

- <実施内容>
- (仮)干潟交流センターとして強いテーマ性を持った体験・交流・研修施設を整備するとともに既存の干潟展望館のミニ水族館を改修
 - 研究加工・販売のプロフェッショナルと連携しオリジナル商品の共同開発
 - 空き店舗を活用し宅配サテライト施設を整備

道の駅「クロスロードみつぎ」

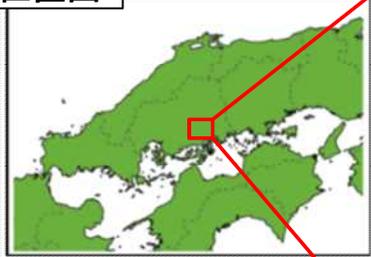
- 地元の高校と連携し、「道の駅」が6次産業化商品開発など地域産業展開の拠点機能を担う。さらに「道の駅」を媒体として、地元企業や農業への就労を促す
- 無料高速道路供用の交通結節点として地の利を発揮、広域的な情報発信や特産品の販売、食の提供などにより集客を強化さらに、交通量の減少となった現道を活かし、オートバイ・自転車利用者の利便性を向上、新たな観光振興策を創出

<地方創生拠点としての機能>

ゲートウェイ型

産業振興 地元高校と連携した商品開発・販売 地産地消を推進する6次産業化商品の開発・販売	地方移住等促進 地元高校生対象としたインターンシップの実施	観光総合窓口 オートバイ・自転車利用者への案内機能
---	---	-------------------------------------

位置図 広域図



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
クロスロードみつぎ	広島県	尾道市	国道486号	既設	平成13年	一体型

これまでの取り組み



高校生が考案したご当地ヒーロー「ミツギレンジャー」による地域振興

これからの取り組み



高校生が開発した地元野菜を使ったハンバーガーのオリジナル商品化



高校生が地元企業と共同開発した「ミツギレンジャーせんべい」



二輪車駐車場の整備 (道の駅を利用するバイク利用者)

道の駅「クロスロードみつぎ」の取り組み

- 尾道松江線が平成26年度に全線開通予定であり、道の駅が拠点となって、開通後の現道沿線地域を盛り上げる。
- 尾道松江線全線開通を契機として広域からの集客を図るため、道の駅のリフレッシュ工事を実施中。地元高校と連携した地域振興を行っている。

<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅と地元高校が連携し、6次産業化商品の開発などインターンシップを実施中。地元での雇用創出を期待。(H24年は地元高校生が道の駅に1名就職)
- H26年度は道の駅のリニューアルを実施、立地条件を活かした他の道の駅との連携企画やオートバイ・自転車の活動拠点となることが期待される。
- 道の駅を中心に、金融機関や行政機能が集中して立地。旧御調町の拠点として、住民が利用しやすい小さな拠点が形成されている。

<実施内容>

- 地元高校と連携したオリジナル商品の開発・物品販売に向けた6次産業化の推進、地元高校生を対象としたインターンシップの実施
- オートバイ・自転車のロードマップ作成、インターネット情報提供、二輪車駐車場の増設
- 道の駅施設の再編実施中。駐車場の増設、産直市の増設、レストランの増床、トイレの全面改修、情報案内コーナーのリニューアル、金融機関の一体化、役場駐車場等の利用

- 国鉄跡地として、道の駅「小国」は整備され、交通センター、観光情報発信基地として機能してきたが、20年を経過。
- 環境モデル都市を契機に、新しい町の玄関口として、移住定住対策や観光総合機能、カーボンニュートラル材仕様の多目的モデルハウス等を整備し三後の要(肥後・豊後・筑後)として、さらなる機能強化を図る。

<地方創生拠点としての機能> ゲートウェイ型



熊本

体験型多目的
モデルハウス



小国杉を活用した木造立体トラス



小国杉を使用した施工例
(イメージ)

地方移住等促進
小国町・ツーリズム協会・木魂館の機能調整

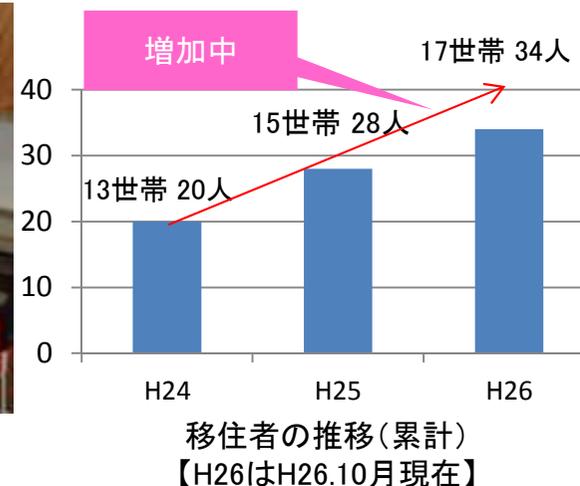
地方移住等促進
カーボンニュートラル材仕様の多目的モデルハウス

観光総合窓口
地域に分散する観光窓口を一本化

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
小国	熊本	小国町	国道387 ・442号	既設	平成5年	単独型



移住相談状況
(毎年100名程度相談)



<提案の先駆性・ポイント>

- 一定の効果が出ている現在の移住相談窓が更に機能するように組織を再編。
- 環境モデル都市の象徴として、地熱乾燥材(カーボンニュートラル材)による小国杉の多目的モデルハウス建設を軸に、地元産木材利用及び移住定住を促進。
- 三後の要【肥後(熊本)筑後(福岡)豊後(大分)】として、観光総合案内所を設置(観光協会の1本化)

<実施内容>

- 多機能トイレ、駐車場整備拡大、レンタサイクル移設
- 体験型多目的モデルハウス建設
(UIJターン希望者への宿泊体験)
- 観光協会設立

道の駅「(仮称)当別」

- 道都・札幌に隣接する特徴を活かし、米や小麦などの地場産品を新鮮に提供する仕組みや、花、スウェーデン風の町並みなど美しい景観を活かす仕組みを構築し、経済活動の活発化
- 再生可能エネルギーを活用した強い農業の確立による地域の活性化
- 様々な市町村や民間企業との連携により、年間を通じた多彩なイベント開催の拠点としての役割を果たす

＜地方創生拠点としての機能＞
地域センター型

産業振興 6次産業化	インバウンド観光 外国人案内所	観光総合案内 道内各市町村の認知度向上				
---------------	--------------------	------------------------	--	--	--	--

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)当別	北海道	当別町	国道337号	新設	平成28年	一体型

石狩湾新港 石狩川 当別 計画地 337 札幌 北広島 恵庭 新千歳空港

(仮称)「道の駅」当別

スウェーデン風の町並み

夏至祭 姉妹都市スウェーデン王国レクサンド市の伝統的お祭り

札幌から約40分



【地場産品の鮮度】
直売所のほか地場産(米・小麦)を主原料にしたレストラン等の店舗展開

【商品づくりの鮮度】
道の駅来場者を対象としたモニタリング調査を実施し、ブランド商品づくり

【景観】
亜麻の花、スウェーデン風の町並み等、季節ごとの魅力を情報発信

■産業振興～地域資源である農産物を直売だけにとどまらず農商工が連携し6次産業化



地元で収穫される米・小麦など



農産物直売所



米、小麦を使った商品開発

地元の米や小麦を使った商品開発に取り組んでいるが町内に加工施設が無く、道の駅に加工場を併設することで、農産物の直売から加工品の製造、販売まで可能となる

■インバウンド観光～民間企業との連携イベント

スウェーデン王国レクサンド市と姉妹都市である当別町にて氷と雪の世界をテーマとしたプロジェクト「アイス・ヒルズ・ホテルイン当別」を民間企業と連携して実施(町内別地で展開中)今後、当該地においても、年間を通じた観光客数の確保を目指し、民間企業と連携したイベントを計画



＜実施内容＞

- 地元農産物を活用した6次産業化のための加工施設及び直売所の整備
- 再生可能エネルギー等を活用した栽培試験ほ場の整備
- 外国人観光客に対応した案内所認定、免税店の許可取得、無料公衆無線LAN環境の整備
- 空き家情報・就労情報など、地方移住に必要な情報のワンストップ提供

＜提案の先駆性・ポイント＞

- 道都・札幌に隣接する立地を活かし、来訪者へのモニタリング調査結果をブランド商品づくりへ活かすほか、もぎ取り体験など、鮮度を優先する仕組みづくりの構築による経済活動の活発化の拠点をめざす
- 再生可能エネルギーの活用による農産物の低コスト生産と冬期間の農産物生産による高価格販売の実証を行い、環境にやさしく、強い農業の確立を目指す
- 道内の外国人宿泊客数シェアが約40%を占める札幌に隣接する特性を活かし、外国人観光客をターゲットとした民間企業との連携イベントを開催し、年間を通じた来場者数確保を目指す

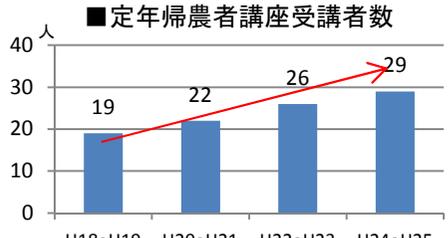
道の駅「(仮称)常陸太田」

- 年間を通して摘み取り体験可能な多品種のトマトハウス(1,000㎡)を整備し、栽培管理者として県内の農業者等養成専門大学校の新卒者を雇用。将来的には市内で独立した農業経営が可能となるよう、ほ場や住居等の確保を支援。
- また、6次産業化や農商工連携等に取り組む意欲のある農業者や団体グループが、加工品づくりの試作や研究ができる専門スペースを設置するなど、地域の基幹産業である農林畜産業の振興を図るための拠点として道の駅を活用。

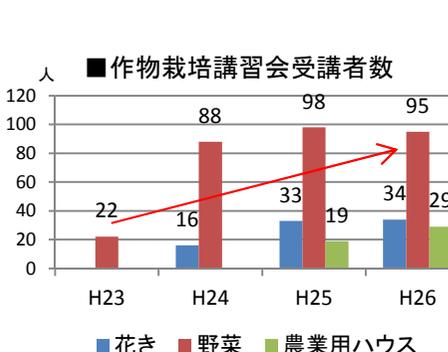
<地方創生拠点としての機能>

地域センター型

産業振興 農業専門大学校の学生の雇用	地方移住等促進 定年帰農者等のための講習会	観光総合窓口 地場産物を活用した体験・交流	防災 災害時の避難所・ヘリポート設置
------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	------------------------------



H18以降、受講者のうち39名が実際に農業従事者として朝市等に出荷



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
常陸太田	茨城県	常陸太田市	国道349号	新設	平成28年(予定)	一体型



※イメージ図であり、今後、変更があります



<提案の先駆性・ポイント>

- 県内農業者等養成専門大学校の新卒生の採用、新規就農や定年帰農を希望する方への、栽培農家等による技術支援、空き家等を活用した住居、耕作地等の確保や、農業用ハウスなどの整備を支援。
- レストランにおいて、地元農家が生産した野菜を使用した、地元主婦調理による「お袋の惣菜ビュッフェ」を提供。
- ヨーロッパの「マルシェ」市場をイメージした地元農産物の直売所(ファーマーズマーケット)において、商品知識の豊富なスタッフによる(野菜ソムリエ、食育ソムリエ等)販売。

<実施内容>

- 体験ほ場施設として、トマトハウス(1,000㎡)を整備し、栽培管理者として農業者等養成大学校の新卒生を雇用。
- 地元農産物等の直売所(ファーマーズマーケット)、加工所、レストラン、フードコートの整備。(6次産業化の推進)
- 農業者、商業者、観光客、市民などの交流コミュニティスペース(体験交流施設)の整備。

- バラ(苗生産日本一)や野古墳群(国文化財)など大野町の観光資源だけでなく、隣接する西美濃観光圏まで広く観光情報をPR
- 整備が進む東海環状道(仮称)大野・神戸ICの開通(予定)を活かし、通常時には周辺地域から広く観光客を呼び込む拠点(地域観光総合窓口の設置)となるほか、災害時には既存の広域防災拠点を補完し連携して活動する防災拠点として機能

＜地方創生拠点としての機能＞
地域センター型

産業振興 農・特産事業の活性化	地域福祉 公共交通の乗継拠点・子育て支援	防災 防災拠点・災害避難支援
--------------------	-------------------------	-------------------



○バラ苗生産日本一



○全国有数の富有柿の産地



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)大野	岐阜県	大野町	主要地方道 岐阜関ヶ原線	新設	計画中 (平成29年)	一体型

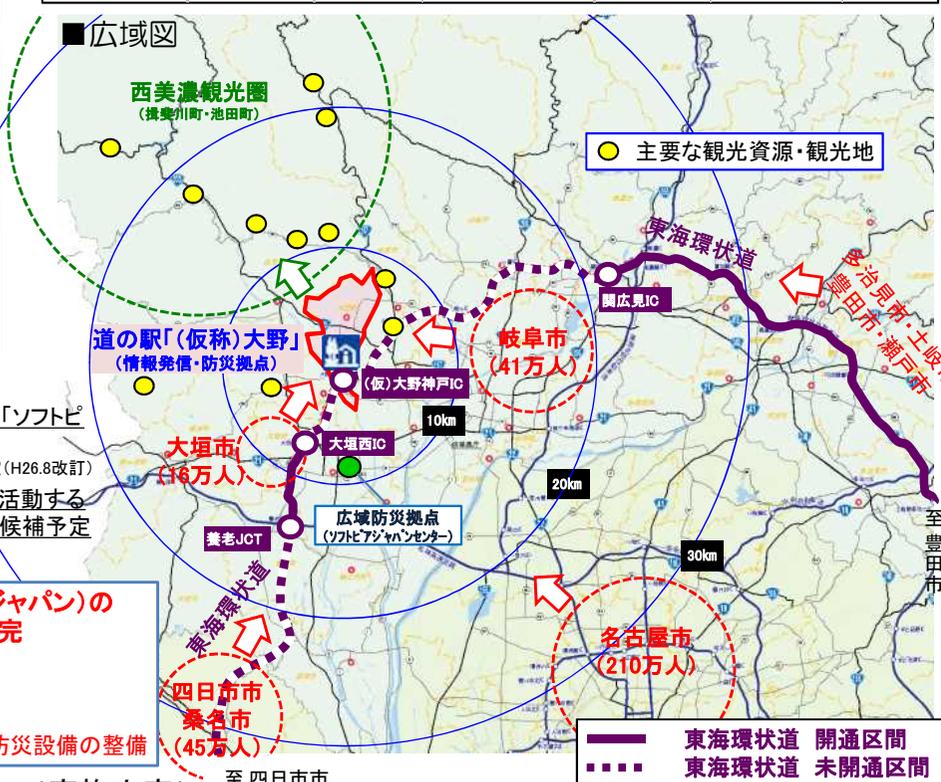


■広域防災拠点の機能強化

- ・岐阜県西濃圏域の広域防災拠点として「ソフトピアアジア」が指定
(岐阜県災害時広域支援計画により県内7施設を指定 (H26.8改訂))
- ・既存の広域防災拠点を補完し連携して活動する施設として「道の駅(仮称)大野」を追加候補予定地に選定

西濃圏域広域防災拠点(ソフトピアアジア)の課題・不足する機能を「道の駅」が補完

- 医療搬送拠点の機能
→ヘリコプター場外離着陸場の整備
- 活動拠点の機能
→ICに近接、オープンスペースの確保、防災設備の整備



＜提案の先駆性・ポイント＞

※イメージであり、今後、変更があります。

- 東海環状道(仮称)大野・神戸IC開通(予定)を契機に、町内に点在する観光資源の回遊性を高めるため、河川敷や廃線敷を利用したサイクリングロードの整備を図るとともに、特産品であるバラ苗や柿を中心とした産業振興拠点とする(農商連携した商品開発・販売)
- 災害時の(仮称)大野・神戸ICからのアクセス性を活かし、災害時の防災拠点として機能(ヘリコプター場外離着陸場、救援スペース・貯水槽・備蓄倉庫・太陽光・蓄電池等を整備)

＜実施内容＞

- 地域の特産物販売・直売及び、雇用などによる産業振興の整備
- 地域資源を活かした体験・交流機会の提供
- 地域公共交通ネットワークの乗継拠点
- 地域観光案内窓口の設置(大野町+西美濃観光圏)
- 自衛隊等の広域支援活動を想定した防災拠点の整備
- 子育て支援施設及び子どもの安全性の高い遊び広場の整備

- 日本のマチュピチュと呼ばれ、観光客が急増(H21年:約2万人→H25年:約50万人)している天空の城「竹田城」や生野銀山等の観光資源の集客力を活かし、道の駅来訪者のさらなる増加につなげ、産業創出、雇用促進、定住化の担い手として機能を強化
- 現施設を增強し、大学・研究機関等と連携し新農産品を開発するラボ機能及び空き家情報・就労情報などの定住化情報の発信機能を追加

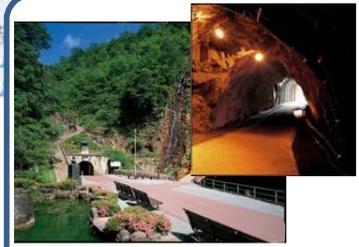
<地方創生拠点としての機能> 地域センター型

地方移住等促進 朝来市定住に関する情報提供	産業振興 新農産品開発ラボ機能	産業振興 地元農産物の集配センター機能
--------------------------	--------------------	------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
但馬のまほろば	兵庫県	朝来市	国道483号	既設	平成17年	一体型

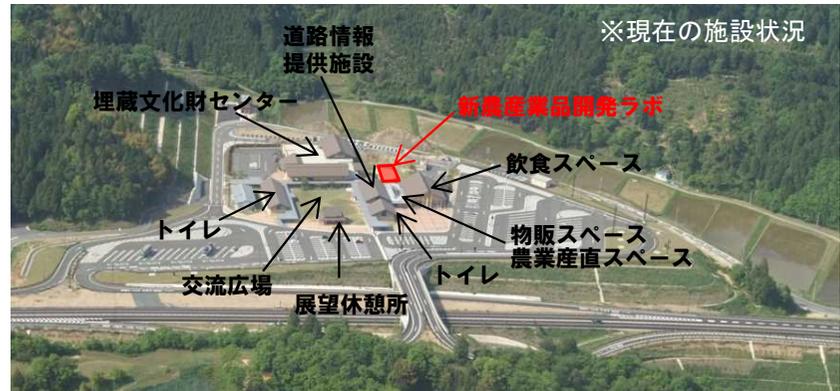


産業振興
日本三大葱の一つ「岩津葱」のブランドを活かした新農産品開発



生野銀山

徳川幕府直轄鉱山として栄えた大鉱山で、1973年に閉山。実際の坑内に入り、当時のままの岩肌等見ることができる。



イベントで賑わう「道の駅」



地場産品を買い求める観光客等にぎわう直売所

<実施内容>

- 関西大学等の大学や研究機関と連携し、地元農作物の成分を使った新農産品の開発を行う研究施設を新設する等のラボ機能の追加
- 空き屋情報紹介、就労情報発信、企業誘致情報提供、ふるさと納税受付機能を一体的に行う行政情報コーナーの整備
- JNTO外国人案内所登録(申請中)し、多言語対応可能なスタッフを配置、免税店登録(申請中)

<提案の先駆性・ポイント>

- 産学公連携による商品開発研究・農業ビジネス開拓のための新たなを形成
- 空き屋情報、就労情報、企業誘致情報など、定住促進に向けた情報発信の新たな拠点を形成

道の駅「(仮称)にちなん」

- 「道の駅」を6次産業化推進による雇用機会の創出、交流の拡大を担う地場産業の商業拠点ゾーンとして整備
- “創造的過疎の創生”として、「道の駅」が媒体となって高齢者と若者が交流できる拠点を形成。地場産業を創出し、地方移住や社会福祉支援の拠点機能を「道の駅」が担う

＜地方創生拠点としての機能＞
地域センター型

産業振興 地場産業の振興・雇用創出	地域福祉 高齢者・定住促進 住宅併設	地方移住等促進 空き家・就労情報 提供	インバウンド観光 電気自動車による 周遊観光	観光総合窓口 観光イベント 情報提供	防災 後方支援拠点
----------------------	--------------------------	---------------------------	------------------------------	--------------------------	--------------

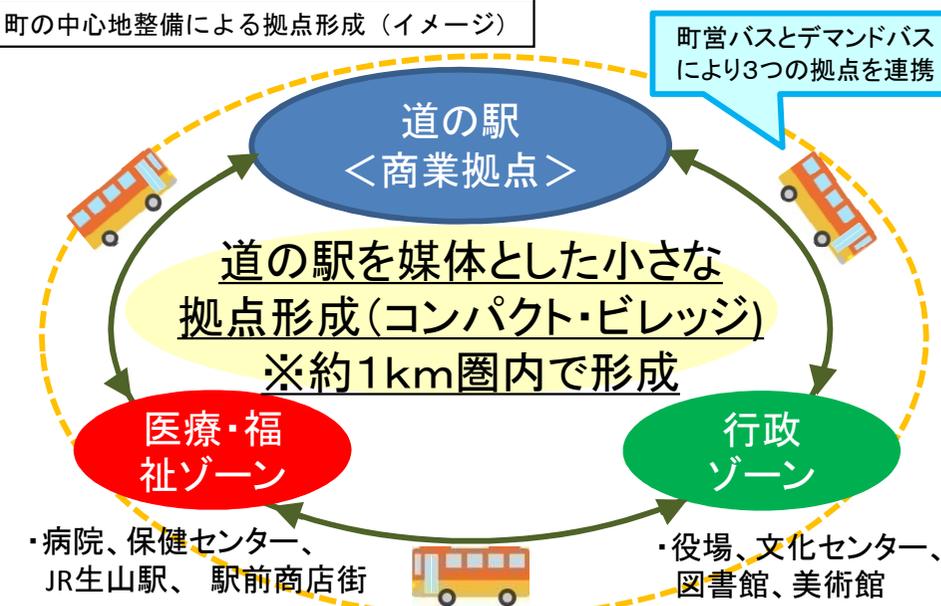
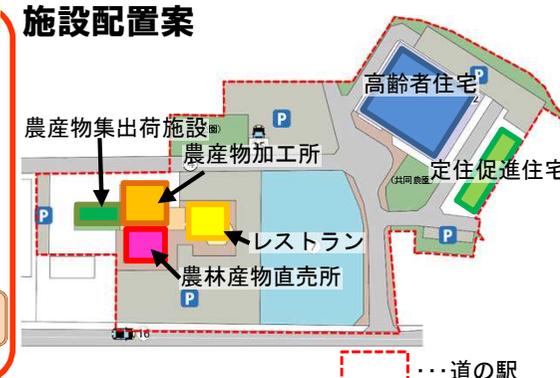


【日南町で進行する高齢化】
 ・人口: 5,308人(H26.3)
 ・高齢化率: 46.2%(H26.3)
 ↓
 20年後、2035年の推計では
 ・人口: 約3,000人まで減少

目指す方向

集客交流や地場産業の振興(6次産業化推進) 道の駅「にちなん(仮称)」

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
にちなん(仮称)	鳥取県	日南町	主要地方道 新見日南線	新設	平成28年(予定)	一体型



魅力ある拠点づくりによる移住定住の促進



＜提案の先駆性・ポイント＞

- 道の駅を中心に小さな拠点を形成。高齢・過疎地域で若者と高齢者の交流の場が創出され、社会福祉効果が期待される。
- 道の駅が地域の商業拠点ゾーンとなり、6次産業化の推進など産業振興・雇用創出効果が期待できる。

- 特産品(トマト)のブランド化、6次産業化による地場産業の振興と雇用創出
- 高齢者向け住宅と定住促進住宅の併設による多世代交流と地域公共交通ネットワークの拠点としての整備
- 空き家情報、就労情報等地方移住に必要な情報の提供
- レンタル電気自動車を配備し、町の観光ルートをナビで案内
- 地域の観光案内、体験・交流機会の提供、近隣の道の駅とタイアップしたイベント開催
- 緊急時に広域支援部隊が参集する後方支援拠点及び緊急避難所の整備

道の駅「ゆうひパーク浜田」^{はまだ}

- 島根県内で唯一山陰道に直結する道の駅、夕日と日本海が眺望できる絶好のロケーションを活かし地域交流の拠点を再整備
- 女性スタッフを中心に、女性の嗜好に合わせた施設内外装のリニューアルを実施。女性スタッフ増強による雇用機会創出を行う
- 地域の女性・若者の交流拠点、地域産品のグルメスポット、石見の縁結びスポットとして、イベント開催や地域情報を発信

＜地方創生拠点としての機能＞
地域センター型

「五地想(ごちそう)ものがたり」
“はまごち”によるお客様のもてなし

○ 浜田市では、旧5市町村の風土と食文化への想いを「五地想(ごちそう)」という言葉に込めて、海と山に囲まれた豊かな食材へのこだわりとおもてなしの心を持ってお客様をお迎えし、食の魅力あふれるまちづくりを実施。

○ 「道の駅」では、“はまごち”料理の提供とあわせ、「五地想ものがたり」のPRを行う。

位置図



浜田の五地想地域(旧5市町村)

産業振興
地域産品のオリジナルレシピを発信

ゆうひパーク浜田リニューアルイメージ図

全景イメージ図



イベント広場イメージ図



ゆうひパーク浜田から望める夕日・日本海

地方移住等促進
女性スタッフを地域おこし協力隊制度で採用

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ゆうひパーク浜田	島根県	ゆうひパーク浜田(株)	国道9号	既設	平成5年	一体型

美しい海を活用した空間創り



五地想(ごちそう)ものがたり
浜田の食文化情報発信



女性運営スタッフの活躍



女性スタッフの“手作りボード”によるおもてなし情報提供

＜実施内容＞

- 夕日、日本海が眺望できるテラスの設置、イベント空間の再配置(トイレ移設、通路・ドッグランの設置等)
- 空間コーディネーターによる女性の嗜好にあわせた内外装リニューアル
- 著名シェフによる地元産品を活かしたオリジナルレシピの開発、提供
- 運営スタッフの増強による雇用創出・定住化を促進
- 街コンや異業種交流会を開催、婚活アドバイザーをイベント的に設置

＜提案の先駆性・ポイント＞

- 女性スタッフが中心となって、女性の嗜好に合わせた道の駅施設内外装のリニューアルやイベントを実施し、道の駅を若者の交流拠点として活用する計画。
- 「五地想ものがたり」として地元産品を活かした食文化を道の駅から発信。食による地域のつながり、地元産品消費拡大、雇用創出の効果を期待。

道の駅「つどいの郷むつざわ」

○一日9000歩、町民が歩くことで自然と「健幸」になれる先進予防型のまちづくり「スマートウェルネスタウン」の中核拠点となる健康支援型「道の駅」として、健康に必要な4要素「食」「憩」「運動」「参加」のメニューを提供。

○健康づくりと地域活性化を一体的に行う、地方創生の拠点として「道の駅」と「定住促進住宅」を官民連携手法により一体整備。

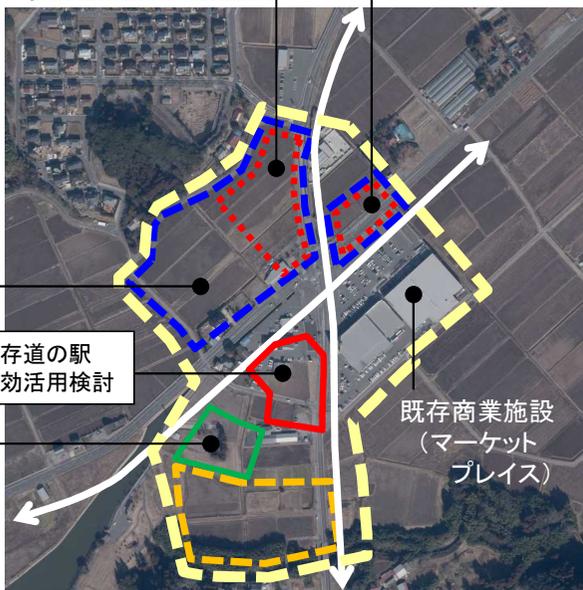
<地方創生拠点としての機能>

地域センター型

地域福祉 スマートウェルネスタウン	産業振興 地場製品の加工、ブランド化	防災 周辺自治体の後方支援機能	地方移住等促進 住宅整備と定住促進センターの設置
----------------------	-----------------------	--------------------	-----------------------------

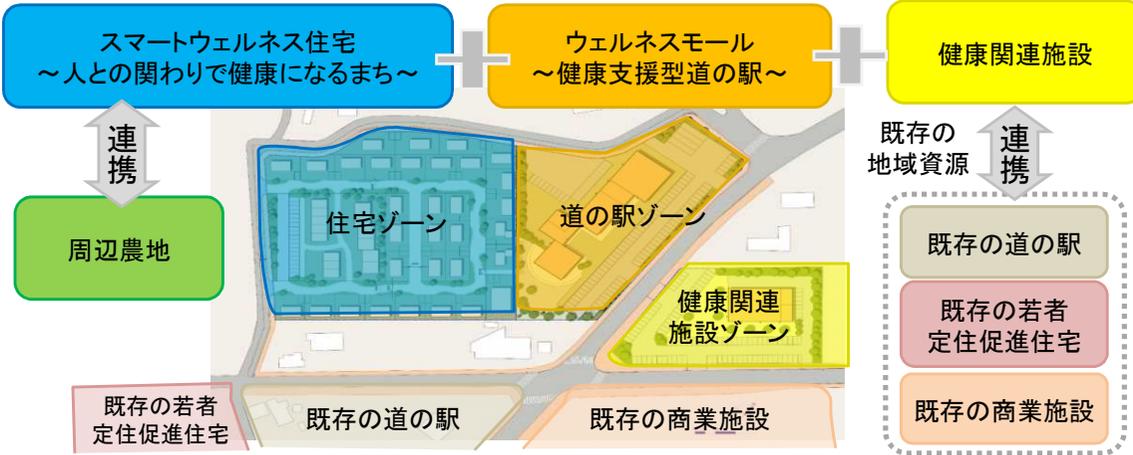
■凡例

- 既存道の駅
- 既存若者定住促進住宅
- 拡張道の駅
- 今回事業区域
- 住宅拡張検討エリア
- スマートウェルネスタウンエリア



写真：国土地理院 航空写真 (2012年)

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
つどいの郷むつざわ	千葉県	睦沢町	県道大多喜一宮線	既設	平成16年	単独型



※イメージ図であり、今後、変更があります。

「Smart Wellness City(スマートウェルネスシティ)」
 「ウェルネス(健幸:個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むこと)」をまちづくりの中核に位置付け、住民が健康で元気に幸せに暮らせる新しい都市モデル。実施により、医療費が年間一人あたり10万円程度抑制された事例もある。(新潟県見附市)

<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅と定住促進住宅を官民連携で一体的に整備し、運営も一元化することでウェルネス住宅(高齢者向け住宅を含む)への支援も含めて、「道の駅」を核に高齢者配食サービスや民間事業者による健康相談などの様々なサービスを提供。
- 温浴施設やフィットネス等のウェルネススペースを付加するなど、健康づくりと地域活性化を一体的に行う、全国的にも新しい「道の駅」。

<実施内容>

- スマートウェルネス住宅と共に定住促進センターの設置
- ウェルネススペースとしてのフィットネスブース、温浴施設の設置
- 産直レストラン・カフェの設置
- 直売・物産施設の設置

道の駅「(仮称)田切の里」

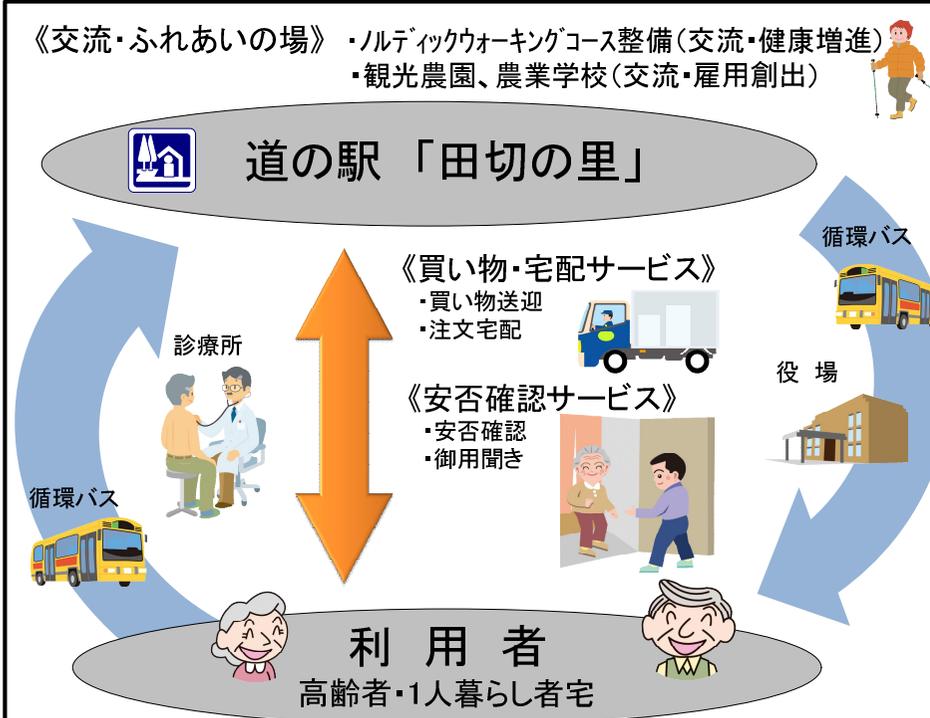
- 人口減少、高齢化が進む中、「道の駅」を地域福祉の拠点とするため、宅配サービスなど高齢者サービスを「道の駅」が実施
- 来場者への農業体験施設等の整備により、都市住民との交流・ふれあいの場(高齢者による生きがいの場)を創出
- 観光情報や農業学校の紹介、定住促進等の窓口となる総合情報ステーションを設置、コンシェルジュも配置

<地方創生拠点としての機能>
地域センター型

地域福祉 高齢者への宅配、及び安否確認サービス	産業振興 特産品の加工販売を中心に産業活性化	観光総合案内 総合情報ステーション整備によるゲートウェイ
-----------------------------------	----------------------------------	--



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)田切の里	長野県	飯島町	国道153号	新設	計画中 (平成28年)	一体型



<提案の先駆性・ポイント> ※現時点のイメージであり今後変更することがあります。

- 高齢者・一人暮らしに対する宅配や給食及び安否確認サービスの拠点として「道の駅」を位置づけ。観光農園や農業学校では農業従事者(高齢者)が先生役となり若者との交流を進め、高齢者の生きがいの場を創出。将来的な定住促進に繋げる
- 地場産品の6次産業化を進めるための「農産物加工所」や採れ立て野菜を提供する「農民レストラン」の設置による産業振興・雇用促進
- 観光・定住促進・ふるさと納税等の窓口設置とコンシェルジュの常駐

<実施内容>

- 農産物販売所をはじめ加工所や農民レストランによる雇用創出
- 観光農園や農業小学校・大学の設置による地域の活性化
- 「道の駅」からの高齢者宅への宅配や安否サービスの実施
- 防災拠点としての倉庫・トイレ・非常電源の整備

道の駅「瀬替えの郷 せんだ」

- 夏と冬の2面活用を目指す豪雪・中山間地の道の駅
- 夏は農業実習生の受け入れ拠点に、冬は高齢者の共同生活の場として道の駅で越冬し、過疎・高齢化が進む豪雪地帯で、担い手確保と生活支援を同時に担う「道の駅」

<地方創生拠点としての機能> 地域センター型

地域福祉 高齢者の生活支援、除雪ボランティア	産業振興 農業実習生の受け入れ	地方移住等促進 新規就農及び定住支援
----------------------------------	---------------------------	------------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
瀬替えの郷せんだ	新潟県	十日町市	国道252号	既設	平成13年	単独型

夏と冬の2面活用を目指す豪雪・中山間地の道の駅



<実施内容>

- 担い手の確保
 - ・農業実習生の受け入れ(「せんだ元気ハウス」に宿泊)
 - ・「雪かき道場」開設による除雪ボランティアの育成
 - ・地方移住に必要な空き家情報や就労情報などのワンストップ提供
- 高齢者の生活支援
 - ・高齢者の越冬のための共同生活の場となる「せんだ元気ハウス」の設置
 - ・高齢者の移動支援(道の駅を拠点としたコミュニティバスの運行等)
- 生活サービスの集約(地域のお茶の間)
 - ・日用品販売所(ミニスーパー)、ATM、交流の場の設置
 - ・地元農産物の加工施設や直売所の設置

地域の課題

- ① 担い手不足**
 - ・高齢化率48.7%
 - ・地域の福祉を担う組織も構成員の高齢化が進展
 - 持続的なまちづくりが困難
- ② 高齢者の不安な冬期生活**
 - ・約4割が高齢者のみの世帯
 - ・冬の除雪、買物や通院に支障
 - 冬期の高齢者の孤立防止、生活支援が必要
- ③ 公共交通サービス低下**
 - ・路線バス1路線(1日5便)
 - ・生活関連施設へのアクセス支障(市役所 約9km、金融機関 約9km)
 - 日常サービスの強化が必要



<提案の先駆性・ポイント>

夏と冬の2面活用

- 外から人を呼び、元気を創る「夏の拠点」
 - ・農業実習生の受け入れ(「せんだ元気ハウス」に宿泊)
 - ・地方移住と新規就農の支援
 - ・地元農産物による産業活性化
- 豪雪期に、共同生活の場となる「冬の拠点」
 - ・越冬のため「道の駅」で共同生活(「せんだ元気ハウス」で生活)
 - ・生活サービスの道の駅への集約
 - ・除雪ボランティアによる高齢者生活支援

- 梶原町は、高齢化が非常に進んでおり、地域福祉の充実、若者の移住促進や雇用の創出が重要な課題
- 道の駅を地域の自然を活用し健康増進を図る『ゆすはらまるごとクリニック』構想の拠点施設と位置付け、森林浴や温泉、スポーツを通し健康を再生
- 道の駅において空き家や雇用情報を一元的に提供し若者の移住を促進、さらに道の駅の直売所を増設し地域産業を育成するとともに地域の観光窓口として地域の観光名所や宿泊予約、体験ツアーの紹介を行うことで地域の観光産業を発展、雇用を創出

<地方創生拠点としての機能>

地域センター型

地域振興 地域資源の活用(人・物・環境)	地域福祉 すはら丸ごとクリニック	観光総合案内 梶原全域のゲートウェイ	移住定住等促進 移住定住情報のワンストップ提供
-------------------------	---------------------	-----------------------	----------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ゆすはら	高知県	梶原町	国道197号	既設	平成5年	単独型

道の駅を活用した地域住民の健康増進対策

(「ゆすはらまるごとクリニック(※)」の拠点施設としての位置づけ)

◆太郎川公園(改修)
森林散策等を通じた健康増進



セラピーロード
(散策路)

◆直売所・レストラン(増設)
新鮮な地元直産品を食べて健康増進



直売所(雲の上市場) 四万十川のアユ

※『ゆすはらまるごとクリニック構想』
地域資源を活かし、地域施設が連携することで
地域の人が健康を再生し人と人との絆を深める
場を提供する取組

◆プール・フィットネス施設(改修)
トレーニングによる基礎体力の増強



温水プール フィットネス施設

◆雲の上ホテル・温泉施設(改修)
ホテルや温泉での休憩を通して体力回復



雲の上ホテル 温泉施設

<実施内容>

- 「ゆすはらまるごとクリニック」構想の拠点施設として森林浴やフィットネスなど健康再生施設を整備し総合的な福祉対策を実施
- 移住窓口として空き家や雇用情報を一元的に提供する総合案内所を整備
- 直売所の増設や域内の観光情報の提供により新たな雇用を創出
- 再生可能エネルギーを利用したEV充電器を整備するなど先進的な環境対策

観光窓口

観光案内施設の設置、宿泊予約の実施、無線LAN、EV充電



福祉対策

道の駅での森林浴、温泉、スポーツの場の提供



道の駅による総合的な地域活性化対策



雇用対策

直売所の増設、道の駅での新たな雇用



移住支援

道の駅で一元的に空き家情報や雇用情報を提供



道の駅の施設計画の見直し・大規模改修を実施

(プロジェクトチームを構成、東京大学 隈研吾教授に検討依頼)

<提案の先駆性・ポイント>

- 高齢化率42%という極度の高齢化という地域の課題に対し、福祉・移住支援・産業育成の多面的な観点から地域の拠点として道の駅を活用。
- 地域の自然を活用し健康増進を図る「ゆすはら丸ごとクリニック」構想の中心施設としてまちづくりと一帯となって道の駅を活用

- 深刻な高齢化や九州北部豪雨災害で被災した中山間地域で、高齢者や女性がいきいきと働き・暮らすための拠点を整備
- 水と緑のまちとして、『EVをフル活用したネットワーク』を道の駅を拠点に構築してヒト・モノの流動を活性化

<地方創生拠点としての機能>
地域センター型

<p>地域福祉 中山間地域高齢者のためのネットワーク構築</p>	<p>産業振興 女性による商品開発、ブランド化の促進</p>	<p>地域文化、観光資源の発信 地域文化、観光資源の発信</p>
---	---	--------------------------------------



中山間地域の課題

課題1 高齢者の生活存続の危機
 高齢化率39%
 路線バス2路線10便廃止(H26.10)
 →手段があれば野菜を出荷したい
 →生鮮食料品の購入がむずかしい

課題2 女性のパワーによる地域活力の向上
 女性が多くヒット商品開発
 女性グループ400以上が活動
 →もっと商品開発を進めたい
 例)弁当、規格外品の農作物を活用した商品(柿チップ、ドレッシングなど)

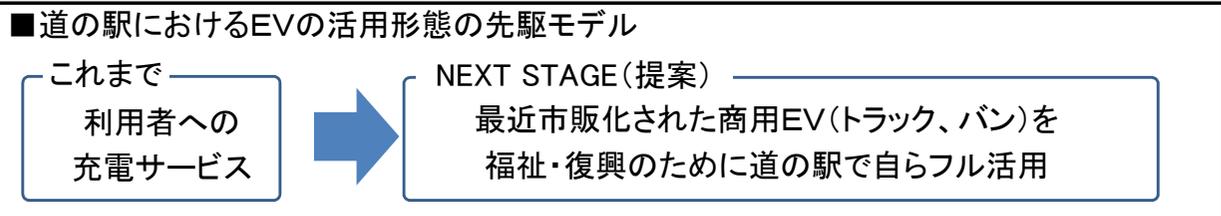
課題3 防災と復興の加速
 九州北部豪雨災害(H24.7)
 土砂崩れ、浸水、孤立化
 市内外からの復興支援
 →豪雨災害を起こさない抜本対策が必要(地球温暖化防止)

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
うきは	福岡県	うきは市	国道210号	既設	平成11年	一体型



- <実施内容>
- 提案1 ヒト・モノ流動活性化のための『EVネットワーク』の構築
→EV自動車による集荷・宅配, デマンドタクシーなど
 - 提案2 女性や高齢者の「生き生き仕事・暮らし拠点」の整備
→加工、子育て支援施設、農業支援センターの整備など
 - 提案3 高齢者や女性の生産品販売促進のための「うきは魅力アッププロジェクト」
→野外円形劇場の復活、うきはブランド化、観光PRの強化など

<提案の先駆性・ポイント>



- 火山噴火(有史以来4回)や豪雪・地震等のあらゆる災害リスクを抱える磐梯山の麓に総合防災拠点として整備
- 緊急時には、観光客及び地域住民への緊急避難機能(避難所、ヘリポート、モータープール)・情報発信基地として機能
- 平時は野菜ソムリエの育成や特産品のブランド化により賑わいの場を創出。併せて、災害時の食料確保を図る

<地方創生拠点としての機能>

地域センター型

防 災
火山・豪雪・地震等に対応

観光総合案内
周辺観光所化と観光周遊の拠点化

地域経済活性化
農産物の高付加価値化と6次産業化



磐梯山の噴火
(明治21年7月15日)
【磐梯噴火記念館所蔵】



積雪障害



地域の特産品

▲ブランド化を目指すキャベツ

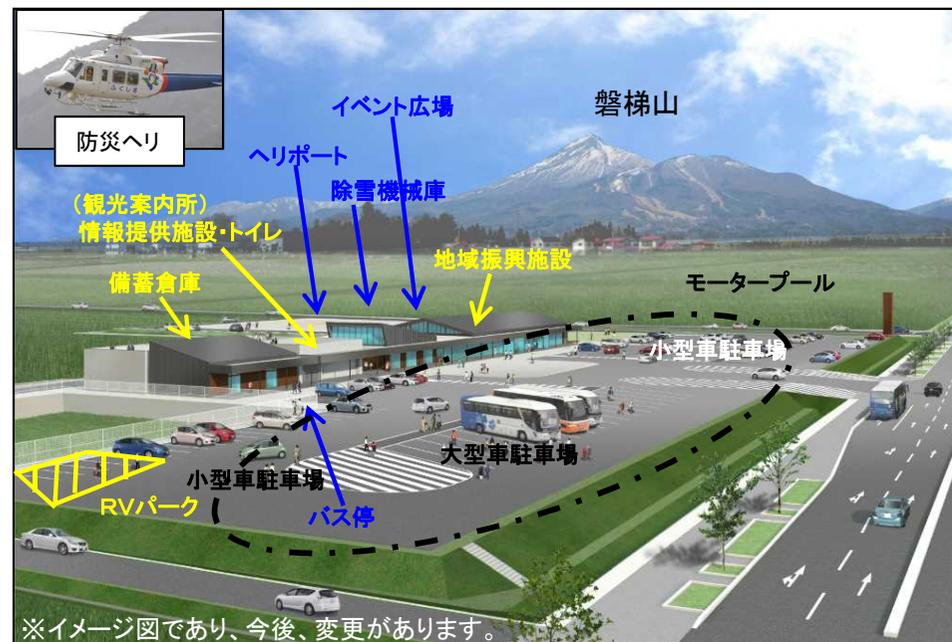


防災マップ凡例

想定火口	降灰	降灰後の土石流	豪雪による火山泥流

● 役場
● 支所
● 警察署
● 駐在所
● 消防署
● 水防センター
● 警報サイレン
→ 避難経路

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
いなわしろ (仮称)	福島県	猪苗代町	国道115号	新設	平成28年	一体型



<実施内容>

- 火山災害時の地域住民の避難スペースや、豪雪による通行止め時の待避車両の駐車スペースを備える大規模な総合防災拠点を整備。完成後は、災害パターンごとの避難訓練を実施。
- 観光コンシェルジュを配置した地域の観光案内所を整備し、案内誘導ワンストップサービスを実施。観光地巡りを商品化し、周遊バスを活用した地域観光ルートを企画。RVパークを整備
- 「いなわしろブランド」の立ち上げ、6次化産品コンテスト、軽トラ市を実施

<提案の先駆性・ポイント>

- 国道49号、国道115号、磐越道における火山災害・豪雪・地震時のモータープール機能や緊急時の救難ヘリポート機能を確保
- 野菜ソムリエ等の育成・雇用をはかり「いなわしろブランド」を確立。出張販売を導入。緊急時の食料確保も担う。
- 観光協会と連携し、地域内周遊観光商品(グリーンツーリズム)の開発・販売。水道、電源を備えたRVパーク(キャンピングカー宿泊)等の整備

道の駅「あらい」

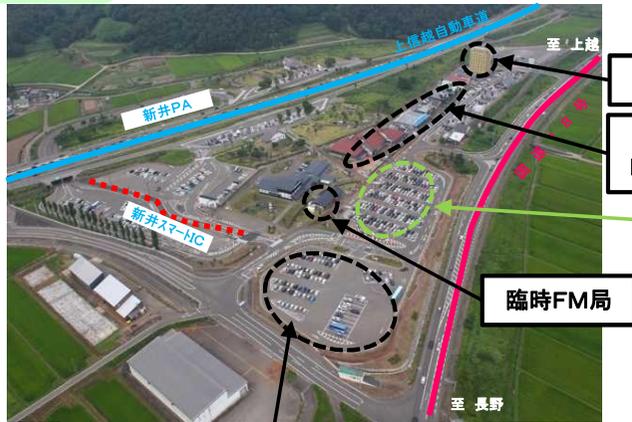
- 豪雪地帯にあって、環境・観光にも配慮した新たな防災拠点としての「道の駅」
- 降積雪期の大規模災害発生時に、駐車場の一部を立体化しておくことで、臨時避難場所や物資保管場所として利用
- また、近隣のメガソーラー発電所と接続し、EV車も電源車として災害時に活用

＜地方創生拠点としての機能＞
地域センター型

防災
地域・広域災害への支援基地機能

インバウンド観光
北陸新幹線新駅・国立公園の独立との連携

観光総合窓口
地域資源をつなげるネットワーク構築



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
あらい	新潟県	妙高市	国道18号	既設	平成12年	一体型

駐車場立体化(スノーシェルター化)

【平常時】多客時の収容、冬期バリアフリー対応
【災害時】冬期など天候に影響されず、1階部分を臨時避難所や物資補完、積み替えに活用

メガソーラーとEV車を活用した電力供給

【平常時】EV対応充電設備の設置
道の駅連絡用としてEV車を活用 など
【災害時】メガソーラーと連携しEV車による電力供給

地域の概要

- 過去に災害を経験した自然豊かな豪雪地帯**
・中越沖地震、豪雪、融雪災害(土砂崩れ)等を経験 → **雪や環境に対応した防災拠点が急務**
- 海にも山にも近い、交通結節点に「道の駅」が立地**
・国道と高速が直結し、新幹線新駅も新設 → **防災拠点として道の駅がベスト**
- スキーや日本らしさ(国立公園等)を求めてくる外国人客の増加**
・外国人客(H18:350人→H25:2万人) → **観光客にも安心な防災拠点が必要**

直売所・レストラン

【平常時】農産品等の直売
【災害時】避難者等への無償提供

FM協定放送

【平常時】観光情報等提供
【災害時】災害情報提供

ホテル

【平常時】宿泊施設
【災害時】避難者等への無償提供

公園

【平常時】水遊び場等
【災害時】緊急時の貯水機能

＜実施内容＞

- 地域住民に加え、観光客へも対応した1次避難機能強化
 - ・駐車場立体化、無線LAN整備(立体化駐車場内含む)
- 外国人案内所、ATM、農産品直売所の拡充等の機能充実、旅行企画提供など
- 避難所、支援部隊の基地機能(ハブ基地機能含む)の向上
 - ・直売所等と連携した飲食、宿泊提供
 - ・スマートIC 24時間化 など
- メガソーラーとEV車を活用した災害時の電力供給拠点機能
 - ・メガソーラー発電所との連携による非常時の電力供給協定・システム構築
 - ・EV充電器整備、EV車の災害時活用 など

＜提案の先駆性・ポイント＞

新たな防災拠点

- 「雪」に対応した防災機能強化
 - ・駐車場立体化によるスノーシェルター化
 - ・EV車による消雪設備等への電力供給等
- 「環境」「観光」に配慮した防災機能強化
 - ・メガソーラーと連携しEV車を災害時に活用
 - ・観光客への防災情報提供(外国人対応)
 - ・平常時の観光施設を災害時にも無駄なく利用

道の駅「(仮称)すさみ」

和歌山県すさみ町

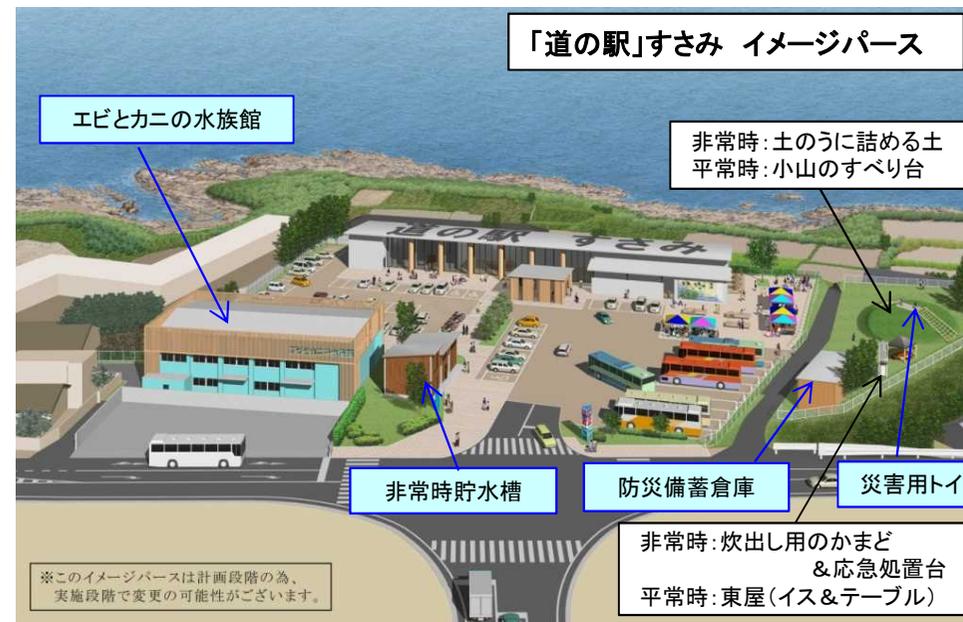
- 南海トラフ巨大地震時に津波により壊滅的に被害を受ける江住地区・江須之川地区(261世帯493人)の避難場所および緊急車両や支援物資等が集まる広域防災拠点として整備
- 紀南地方南部地域のゲートウェイとして、世界遺産である熊野古道や、プレートの沈み込みに伴って生み出され、世界的に見ても大変貴重な地質及び地形を有する南紀熊野ジオパーク等の地域資源の情報を発信

<地方創生拠点としての機能> 地域センター型

観光総合案内 紀南地方南部地域のゲートウェイ	産業振興 特産品によるオリジナル商品の開発・販売	防災 地域住民の命の砦、広域的な防災拠点
---------------------------	-----------------------------	-------------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
すさみ(仮称)	和歌山県	すさみ町	国道42号	新設	平成27年	一体型



<実施内容>

- 人命救助及び小規模な道路啓開用の資機材を保管し、年1回の防災訓練では機器の点検を兼ねた、丸太切り大会等を実施。
- 道の駅に植える草木を食べられるものとし、レシピも記載したネームプレートを設置。防災訓練ではこれらを使った非常食の炊き出しを実施。
- 非常用電源、防災備蓄倉庫、炊き出し用かまど等の整備。
- 周辺の観光情報をきめ細かく提供する観光案内人(コンシェルジュ)の配置。

<提案の先駆性・ポイント>

- 周辺の津波浸水地域の住民の避難場所及び緊急車両や支援物資等が集まる広域防災拠点として整備し、想定外の災害が来ても生き延びられるように、人命救助や野草を使った非常食の炊き出しの防災訓練を行う。
- 全国でも有数の漁獲量を誇るすさみのイセエビをアピールするため、世界で唯一のエビとカニに特化した「エビとカニの水族館」を敷地内に整備し、「水族館のある道の駅」として集客を図る。

道の駅「かわうその里すさき」

- 須崎市は約30年間で人口が約2/3に減少するなど人口減少対策や地域産業の振興が急務
- 道の駅に移住相談や田舎暮らし体験ツアーの窓口を設置、空家情報・就労情報の提供を実施し都市部からの移住を促進
- 高速道路に直結した道の駅をまち全域や高幡地域(奥四万十)の観光総合窓口として多言語化に対応した観光案内所の設置や免税店の設置など案内機能を充実
- 地域防災計画への位置づけも視野にいれ、津波避難タワー等を新設し地域の防災拠点として防災機能を強化

<地方創生拠点としての機能> 地域センター型

産業振興 地域ブランドの情報発信	防災 震災伝承・津波防災文化	観光総合窓口 高幡地域のゲートウェイ	地方移住等促進 都市部などからの移住定住を促進
---------------------	-------------------	-----------------------	----------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
かわうその里すさき	高知県	須崎市	国道56号	既設	平成10年	一体型

◆移住支援

- ・空き家情報や就労情報の提供
- ・田舎暮らし体験ツアー

◆ふるさと納税の情報提供



須崎市への移住を促すポスター

◆周辺施設の観光案内機能を充実

- ・外国人用観光パンフ
- ・免税店の併設
- ・無線LAN、EV充電器

◆直売所の充実

- ・新たな水産系直販所の増設



須崎市で地域ブランドとして売り出しているメジカやウツボ

◆道の駅を地域の防災拠点化

- ・津波避難タワーを設置
- ・自家発電用太陽光発電導入
- ・非常食・毛布等の備蓄
- ※地域防災計画への位置づけも検討中



津波避難タワー(イメージ)



◆津波避難タワーを新設
津波災害時に地域住民の一次避難が可能
※ビル構造とし平時は地域の文化財等を展示



◆防災パネル展の開催
道の駅において地域の人々の防災意識を高める防災パネル展を開催

<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅を窓口として地域の空き家情報や就労情報、ふるさと納税情報を提供し地域の人口減少対策として活用。
- 高速道路に直結した道の駅としてまち全域や高幡地域(奥四万十)への観光情報を一体的に提供し域内への周遊を促す。
- 立地条件を生かし、地域ブランドとして任期があるメジカ・ウツボを近隣の港から直送し販売、新たな流通販路を開拓
- 道の駅に津波避難タワーを併設するなど防災機能を強化

<実施内容>

- 移住支援窓口として移住相談や田舎暮らし体験ツアーの窓口を設置し、空き家情報や・労情報を提供
- 地域の観光窓口として観光コンシェルジュを設置し、無線LANやEV充電設備も設置、地元須崎港で水揚げされる水産物を扱う直販所を新たに設置
- 地域の防災拠点施設として津波避難タワー等を新設